

第四百四十二條

已決ノ囚徒逃走シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス〔刑一四四、五〕

若シ獄舎獄具ヲ毀壞シ又ハ暴行脅迫ヲ爲シテ逃走シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス同上

一 本條ノ主旨

二 第一項ノ解

三 第二項ノ解 ○獄舎ノ間隙ヲ窺ヒ若クハ獄吏看守者ノ怠慢ニ乘シテ逃走シタル者追跡人ニ對シ暴行脅迫ヲ爲シタルトキハ如何 ○本項ノ罪ヲ犯スニ因リ官吏ヲ毆傷シタル者ハ如何

〔一〕○本條ハ既決ノ囚徒逃走シタル者ノ罪ヲ定ム

〔二〕○第一項

本項ハ既決ノ囚徒逃走シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處スヘキ旨ヲ定ム

既決ノ囚徒トハ身體ニ對スル刑ノ言渡ヲ受ケ其言渡確定シタル者チイフ既決ノ囚徒刑ノ執行中ト其執行前トチ問ハス逃走シタル者ハ皆ナ本項ニ依リ之ヲ處斷スヘキナリ然レトモ罰金科料ノ言渡ヲ受ケタル者ノ逃走ハ本條之ニ關知セス

或曰ク既決ノ囚徒ハ常ニ其刑ヲ免カレントスルモノナレハ暴行ヲ以テ逃走シタル者ハ之ヲ罰スヘキモ看守者ノ怠慢ニ乘シ毫モ暴行ヲ用ヒスシテ逃走シタル者ノ如キハ之ヲ罰スヘカラサルカ如シト曰ク佛朗西法ニ於テハ暴行ヲ以テ逃走シタル者ニ非サレハ之ヲ罰セス其趣

意書ニ曰ク自由ヲ欲スルハ人ノ常情ナリ固圍門關ノ開
 闢ヲ見テ逃走シタル者ヲ罰スルヲ得スト此法ヤ一見人
 ナシテ正理ヲ感セシムルカ如シ然ルト雖モ退テ考フル
 ニ亦大ニ然ラサルモノアリ若シ此ノ如キ者ナシテ其罪
 ナ免カラシメハ暗ニ囚徒ノ逃走ヲ勸誘シ囚徒ハ常ニ間
 隙ヲ窺ヒ其身ヲ脱セシムルヲ圖慮スルニ至ルヘシ實ニ
 囚徒ノ如キハ官充分ニ之ヲ警保看守スルヲ得ヘシト雖
 モ而モ必スシモ間隙ナシトモ今少ク警守ヲ怠リタル
 ノ故ヲ以テ囚徒ノ逃走ヲ許スカ如キハ豈其理ノ正違ナ
 ルモノナランヤ矧ヤ再犯ヲ豫防シ世安ヲ維持センカ爲
 メニハ之ヲ罰スルノ必要ナルニ於テヤ聞ク羅馬及ヒ
 那不勒ニ於テハ單純ナル囚徒逃走ノ罪ト雖モ之ヲ恕ス

(第七號)

ルコトナク唯之ヲ暴行ヲ以テ爲シタル者ノ刑ヨリ數等
 輕キ刑ニ處シタリシト吾カ刑法ニ於テモ亦此區別ヲ設
 ケタルナリ

第三項

本項ハ獄舍獄具ヲ毀壞シ又ハ暴行脅迫ヲ爲

シテ逃走シタル者ノ罪ヲ定ム

囚徒ノ逃走ヲ防カン爲メ設ケアル獄舍獄具ヲ破毀シ又

ハ看守者等ニ對シ暴行脅迫ヲ爲シ逃走シタル者ハ之ヲ

獄舍ノ隙ヲ窺ヒ又ハ獄吏看守者ノ怠慢ニ乘シテ逃走シ

タル者ニ比スレハ其情重ク其害大ナリ故ニ之ヲ三月以

上三年以下ノ重禁錮ニ處スヘシト定メタリ

○或問テ曰ク囚徒獄舍ノ間隙ヲ窺ヒ又ハ獄吏看守者ノ

怠慢ニ乗シテ逃走シタル者其逃走ヲ遂ケンカ爲メ追捕人ニ暴行ヲ加ヘ若クハ之ヲ脅迫シタルトキハ本項ニ依リ之ヲ處斷スヘキ乎將タ前項ニ因リ之ヲ處斷スヘキ乎ト曰ク囚徒逃走ノ罪ハ囚徒逃走スルノ意ヲ以テ獄舍ヲ出テ又ハ其離ルヘガラサル場所ヲ離レタルトキハ既ニ成立セルモノナリ故ニ獄舍ノ間隙ヲ窺ヒ又ハ獄吏看守者ノ怠慢ニ乗シ逃走ヲ爲シタル者ハ其追捕人ニ對シ暴行脅迫ヲ爲スモ本項ニ依テ之ヲ處斷スルヲ得ス然レトモ其暴行脅迫タル之ヲ不問ニ付スルモノニ非ス或ハ第三百三十九條ニ依リ或ハ常人ニ對スル暴行脅迫ノ各本條ニ依リ之ヲ論シ一ノ重キニ從テ處斷スヘキナリ或曰ク追捕人ニ對シ暴行脅迫ヲ爲シタル者ノ如キハ暴行脅迫

ヲ爲シテ逃走シタルモノトシテ之ヲ罰スヘシ何トナレハ此ノ如キ場合ニ於テハ之ヲ逃走中ノ所爲トイフヘシ逃走後ノ所爲トイフヲ得サレハナリト此說一應理アルニ似タリト雖モ余之ニ服從スルヲ得ス實ニ尋常普通ノ語ヲ以テスレハ追捕人ニ對シ暴行脅迫ヲ爲スカ如キハ之ヲ逃走中ノ所爲トイフヘシト雖モ法律ヲ解スルニハ必ス法律上ノ義ニ依ラサルヘカラス法律上ノ義ニ依ルトキハ獄舍ヲ出テ若クハ場所ヲ離レタルトキ既ニ逃走ヲ遂ケタリトシ其後ノ所爲ハ之ヲ逃走後ノモノトセサルヘカラス今囚徒逃走ノ目的ヲ以テ獄舍ヲ出テ又ハ其離ルヘカラサル場所ヲ離レタルトキハ則チ其罪タル既遂犯ナリ故ニ其後暴行脅迫ヲ爲シタルハ逃走ノ爲メ暴

行脅迫ヲ爲シタルニ非スシテ逮捕ヲ拒マンカ爲メ之ヲ
 爲シタルモノトセサルヘカラス蓋シ本項ハ暴行脅迫ヲ
 爲シテ逃走シタル者ニ適用スヘキモ逃走者逮捕ヲ拒マ
 ンカ爲メ暴行脅迫ヲ爲シタルモノニ適用スヘカラサル
 ナリ

本項ハ暴行脅迫
 刑罰ノ輕重
 其ノ方法
 其ノ結果
 其ノ手段
 其ノ目的

○或問テ曰ク本項ノ罪ヲ犯シ因テ官吏ヲ毆傷シタル者
 ハ如何ト或之ニ答ヘテ曰罪ヲ犯スノ方法タル所爲ハ法
 律ニ明文アルニ非サレハ特別ノ罪トシテ之ヲ罰スル得
 サルコト普通ノ道理ナリ第四百十條ヲ設ケタルモ亦蓋
 シ此理ニ基ケルモノナリ故ニ本節ニ第四百十條ト同一
 ノ規則ナキ以上ハ本項ニ依リ之ヲ罰スルノ外他ニ刑ヲ
 科スルヲ得サルヘシト余曰ク否ナ凡ソ罪ヲ犯スノ方法

タル所爲中罪ノ本體ニ密着シテ離ルヘカラサルモノト
 否トノ二アリ罪ノ本體ニ密着シテ離ルヘカラサルモノ
 ハ別罪トシテ之ヲ罰スルヲ得スト雖モ然ラサルモノハ
 法ニ明文ナキモ別罪トシテ之ヲ罰スルヲ得ヘシ今本項
 ニハ暴行脅迫ヲ爲シ云々トアリ此暴行ノ中ニハ毆打創
 傷ノ罪タルヘキモノト然ラサルモノトノ二アリテ毆打
 創傷セサルモ他ニ暴行ヲ爲シタルトキハ既ニ本項ノ罪
 ヲ形成スレハ毆傷ヲ以テ其罪ノ本體ニ密着シテ離ルヘ
 カラサルモノトスルヲ得ス故ニ本節ニ第四百十條ト同
 一ノ規則ナキモ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處
 斷スルヲ得ヘキナリ
 此刑法中第四百十條ニ等キ規則數多アリ茲ニ此等ノ規

則チ設ケタル所以チ説キ以テ本件チ明了ナラシムヘシ
 第四百十條第二百八十條第二項及ヒ第二百八十二條第
 二項ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷セズシ
 テ其各本條ニ照シ一等チ加ヘ重キニ從テ處斷セシカ爲
 メ設ケタルモノニシテ第二百八十二條第二項及ヒ第二百
八十二條第二項及ヒ第二百ニ準シテ論スルモノナリ之第百六十八條第百六十九條
 第二百四十五條第二百五十二條第二百五十五條第二百
 五十七條第三百二十四條第三百二十五條第三百三十五
 條第四百十七條第二項ハ毆打創傷シタルニ非サル者チ
 毆打創傷ノ各本條ニ照シテ論セシカ爲メニ設ケタルモ
 ノナリ由是觀之右數條ハ或ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ
 一等チ加ヘシカ爲メ或ハ其性質毆打創傷ニ非サルモノ

チ之ニ準シテ論セシカ爲メ設ケタルニ外ナラス故ニ具
 ニ人チ毆傷シタル者チ罰スルニ尋常毆打創傷ノ本刑チ
 以テスルニハ別ニ法ノ明文チ要セサルナリ

○佛刑法第二百四十五條 獄舎チ毀壞シ又ハ暴行チ爲

シテ逃走シ若シハ逃走ヲ試ミタル囚徒ハ其所爲ノ
 ミチ以テ六月以上一年以下ノ禁錮ニ處セラルヘシ
 且囚徒ハ爲メニ拘禁セラレタル重罪又ハ輕罪ニ付
 キ言渡サレタル刑期チ終リタル後又ハ其重罪輕罪
 ニ付キ無罪免訴ノ言渡アリタル後直チニ其刑チ受
 シヘシ但暴行ノ際犯シタル他ノ罪ノ爲メ重キ刑ニ
 處スルノ妨ケト爲ルコトナカルヘシ刑九、四〇以下、
二四、六、治一七、
九、三五、八、三六一、
三、六四、三、六五、一、

第四百十三條

已決ノ囚徒逃走ノ罪ヲ犯スト雖モ再犯ヲ以テ論セス其刑期限内再ヒ逃走シタル者ハ再犯ヲ以テ論ス〔刑一九以下〕

- 一 本條ノ解○其刑期限内トハ本罪ノ刑期限内及ヒ逃走罪ノ刑期限内ヲ併ビイフモノナル乎
- 二 再犯ノ刑期中逃走ノ罪ヲ犯シタル者及ヒ一旦逃走ノ罪ヲ犯シ後他ノ刑期中再ヒ逃走ノ罪ヲ犯シタル者ハ再犯ヲ以テ論スヘキ乎

〔一〕○本條ハ既決ノ囚徒逃走ノ罪ヲ犯スト雖モ再犯ヲ以テ論セサル旨ヲ定ム

既決ノ囚徒逃走ノ罪ハ罪ヲ犯シ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ犯スコトヲ得ス前ニ刑ノ言渡ヲ受ケタ

ルコトハ既決囚逃走ノ罪ニ闕クヘカラサル一條件ナリ故ニ立法官既決囚逃走ノ罪ヲ定メ其刑ヲ設クルニ當テハ必ス其再犯タルノ性質ヲ認メ之ニ相當ナル刑ヲ量定シタルナリ然ルニ猶ホ之ヲ再犯トシテ論シ其刑ニ一等ヲ加フルトキハ恰モ再犯ナルカ故ニ加重シタル刑ニ尙ホ一等ヲ加フルニ異ナラス是レ本條ニ既決ノ囚徒逃走ノ罪ヲ犯スト雖モ再犯ヲ以テ論セスト定メタル所以ナリ

○然レトモ其刑期限内再ヒ逃走シタル者ハ再犯ヲ以テ論ス是レ既決囚逃走ノ罪ニハ一旦逃走シタルコトヲ必要ト爲サ、レハナリ

○或問テ曰ク本項ニ所謂其刑期限内トハ本罪ノ刑期限

内キイフ乎將々逃走罪ノ刑期限内ヲモ併セ指ス乎ト曰ク余ノ見ヲ以テスルトキハ本罪ノ刑期限内ノミヲ指スト爲スモ逃走罪ノ刑期限内ヲモ併セ指スト爲スモ別ニ其差違ナシ然レトモ其トハ本罪ト逃走罪トヲ指スモノト解スル方允當ナラン但何レニ解釋スルモ其差違ナキ所以ハ左ニ之ヲ詳説スヘシ

〔二〕〇或問テ曰ク再犯ノ刑期限内逃走ノ罪ヲ犯シ又逃走罪ヲ犯シタル者他ノ刑期限内逃走ノ罪ヲ犯シタルトキハ再犯ヲ以テ論スヘキ乎ト曰ク此点ニ付テハ議論區々トシテ一定セズ甲曰ク本條ニハ其刑期限内再ヒ逃走シタル者ハ再犯ヲ以テ論ストアリ故ニ其刑期限内再ヒ逃走シタル者ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルヲ得スト乙曰ク

逃走ノ當時服役セシ罪ヲ初犯トシ再犯ヲ以テ論スルヲ得サルモ其他ノ場合ニ於テハ通常ノ規則ニ從ヒ再犯ヲ以テ論セサルヘカラスト高木氏ハ乙説ヲ主唱スル者ノ如ク村田氏ハ甲説ヲ主唱スル者ノ如シ即チ村田氏註刑法ハ第五百五十六條ノ下ニ於テ註解シテ曰ク復權ヲ得タル後又ハ停止公權及ヒ監視ノ期限ヲ經過シタル後更ニ他ノ罪ヲ犯シ再ヒ剝奪公權停止公權及ヒ監視ニ付セラレタル時ハ私ニ其權ヲ行ヒ又ハ規則ニ違背スルモ再犯ヲ以テ論スルヲ得スト高木氏刑法註解ハ村田氏ノ説ヲ掲ケ然ル後論シテ曰ク然レ其説果シテ立法者ノ真意ナルカ若シ然ル時ハ其理由如何義解者ハ適ニ之レト相反セル義解ヲ下サント欲ス蓋シ此文字ノ來ル原因ト其理由ト

ヲ推知シテ文字ノ外ニ於テ其真意ヲ求メサル可カラサルナリ今之ヲ論辨スル數百言ノ長文ニ涉ラサルヲ得ス故ニ他日義解増補ニ於テ將ニ之ヲ詳論セントスト爾氏其說ヲ異ニスルヤ明カナリ今此点ヲ決スルニ方リ先ツ本件ニ關スル「フォースタン、エリ」氏ノ說ヲ譯載スヘシ「フォースタン、エリ」氏刑論法曰ク法律ニ於テ再犯タル事件ニ適用スヘキ刑ヲ定メタルトキハ其刑ノミヲ適用スヘク之ヲ加重スヘカラス刑法ニ於テハ其第四十五條及ヒ第二百四十五條ニ此例外法ノ二例ヲ定メタリ一ハ監視規則ニ違背スルノ罪ニシテ一ハ囚徒獄舎ヲ破壞シ又ハ暴行ヲ爲シテ逃走スルノ罪ナリ此二箇ノ罪タル既ニ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ犯スモノナレハ何レモ再犯ナリ

トス而シテ此再犯タルノ模様ハ其罪ニ闕クヘカラサルモノナリ故ニ其再犯タルコトヲ認メテ量定シタル所ノ刑ヲ加重スルヲ得ス八百三十七年八月二十五日附及八百六十四年四月十日云々然レトモ此ニ注意ヲ要スルモノアリ即チ「監視規則ニ違背シタル罪ト監視ニ付シタル刑ノ言渡トヲ以テ再犯ト爲スヲ得サルモ監視規則ニ違背シタル罪ニ付キ刑ノ言渡アリタル後更ニ同性質ノ罪ヲ犯シタルトキハ再犯ヲ以テ論スヘシ何トナレハ第一ノ場合ニ於テハ其罪再犯タルヲ要スルカ故ニ之カ爲メ其刑ヲ加重スルヲ得サルモ第三ノ場合ニ於テハ此ノ如クナラサレハナリ二千八百五十四年七月及他ノ判決ニ曰ク監視ニ付シタルノ言渡ハ其執行ニ違背スル罪ニ付テ

ハ再犯タルノ模様ヲ成サスト雖モ此特別ノ道理タル其
前後ニ於テ各別ノ原由ニ因リ爲シタル刑ノ言渡ニハ全
ク之ヲ適用スヘカラス云々千八百五十六年十一月是レ
固ヨリ當然ノコトナリト

右ニ譯載セル「フォースタン、エリ」氏ノ説ハ能ク其理ニ適
スルモノナリ抑本條ノ設ケアル所以ハ既決ノ囚徒逃走
ノ罪ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ非サレハ犯ス能ハス從
テ其刑ハ立法官ニ於テ再犯タルノ性質ヲ認メテ量定シ
タルモノナレハ之ヲ加重スヘカラサルカ故ニ一旦刑ノ
言渡ヲ受ケタル者再ヒ罪ヲ犯シ再犯ノ刑期限内逃走シ
タル者ハ之ヲ再犯ノ刑ニ照シテ再犯トスルヲ得サルモ
之ヲ初犯ノ刑ニ照シテ再犯トスルヲ得ヘク又刑期限内

逃走シテ捕獲セラレ後餘罪發覺シ其餘罪ノ刑期限内ニ
逃走ヲ爲シタル者ハ之ヲ前發ノ刑若クハ後發ノ刑ニ照
シテ再犯トスルヲ得サルモ初犯ノ逃走罪ノ刑ニ照シテ
再犯トスルヲ得ヘキナリ

或ハ曰ハン理ハ乃チ此ノ如クナルヘシト雖モ本條ニ其
刑期限内云々トアル以上ハ村田氏ノ説ニ從ハサルヲ得
スト曰ク否ナ本條ニ其刑期限内云々ト書シタルハ其刑
期限内再ヒ逃走シタル者ニ非サレハ再犯ヲ以テ論ヒサ
ル旨ヲ示スモノニ非ス立法官ハ前後ノ犯罪ヲ顧ミスシ
テ唯本罪ト逃走罪トヲ慮リテ定メタルモノト解セサル
ヘカラサルナリ

第四百四十四條

第四百四十四條

未決ノ囚徒入監中逃走シタル者ハ第四百四十二條ノ例ニ同シ但原犯ノ罪ヲ判決スル時ニ於テ數罪俱發ノ例ニ照シテ處斷ス〔刑一〇〇以下、

○本條ハ未決ノ囚徒入監中逃走シタル者ノ罪ヲ定ム未決ノ囚徒トハ未決勾留セラレタル者ヲイフ未タ確定裁判ヲ受ケサル者ハ罪人ニ非ス故ニ其逃走スル亦敢テ罪ナキカ如シト雖モ法律既ニ公衆ノ安寧ヲ維持シ刑罰ノ執行ヲ確實ニシ事實發見ヲ容易ニスルカ爲メ未決中被告人ヲ勾留スルノ必要ヲ感シ之ヲ許定シタル以上ハ又必ス之ヲ檢束スルノ處分法ナカルヘカラス是レ本條ノ定メアル所以ナリ
未決ノ囚徒逃走ノ罪ハ刑ノ言渡確定以前ニ在ルモノナ

レハ原犯ノ罪ヲ判決スルトキニ於テ之ヲ數罪俱發ノ例ニ照シ其逃走ノ罪ト原犯ノ罪トヲ比量對度シ其適用スヘキ刑ノ重キモノニ從テ之ヲ處斷スヘキナリ
人アリ問テ曰ク若シ原犯ノ罪無罪免訴ト爲リタルトキ如何スヘキ乎ト或之ニ答ヘテ曰ク草案第七十四條ニハ未決ノ囚徒入監中毀壞又ハ暴行脅迫ヲ爲シテ逃走シタル者ハ並ニ已決囚徒逃走ノ刑ニ同シ但原犯ノ罪判決ノ時ニ於テ數罪俱發ノ例ニ照シ處斷ス若シ原犯無罪ニ歸スル時ハ止テ逃走ノ刑ヲ科ストアリキ然ルニ該條若シ以下ヲ削除シタルニ因テ之ヲ觀レハ立法ノ意蓋シ原犯無罪ニ歸スルトキハ逃走ノ罪亦之ヲ問ハサルモノナラン此ノ如ク逃走罪ノ成立ヲシテ原犯ノ罪ノ有無ニ

第四百四十四條

二二七

關係セシムルハ能ク其當ヲ得タルモノナリ何トナレハ
 原犯無罪ニ歸シタルトキハ被告人ヲ未決勾留シタルハ
 全ク官ノ誤謬ニ出テタルモノニシテ本人ハ決テ未決勾
 留セラルヘキモノニ非ス故ニ縱ヒ其逃走シタルモ其逃
 走シタルハ當然ノコトニシテ之ヲ未決勾留シタルノ却
 テ不當ナレハナリ且治罪法中ニモ之ニ相類スル規則ア
 リ其第二百十七條ニ曰ク豫審判事保證金ヲ没入シタル
 後免訴ノ言渡違警罪裁判所ニ移スノ言渡又ハ罰金ニ該
 ル可キ輕罪ニ付キ輕罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ爲シタル
 時ハ檢事ノ意見ヲ聽キ前ニ没入シタル金額ヲ還付ス可
 シト該條ノ精神タル免訴スヘキ者ハ勿論罰金以下ノ刑
 ニ該ルヘキ者ハ初メヨリ之ヲ勾留スルコトヲ得ス勾留
 セサル被告人ナレハ之ヲ保釋スルコトナシ保釋セサル
 被告人ナレハ保證金ヲ出サシムルコトナシ然ラハ縱ヒ
 呼出ニ應セサルモ保證金ヲ没入スルコトナシ然ルニ豫
 審判事ニ於テ被告人ヲ保釋シタル後其呼出ニ應セサル
 カ爲メ保證金ヲ没入シタルハ元ト豫審判事ノ見込違ニ
 因リ被告人ヲ勾留シタルニ基ケハ一旦没入セシ保證金
 ヲ還付スヘシトスルニ在リ之レト等ク被告人ヲ未決勾
 留シタルカ故ニ彼レ逃走シタルナリ初メヨリ之ヲ勾留
 セサリシトキハ彼レ決テ逃走スルコトナシ縱ヒ逃亡ス
 ルコトアルモ法律之ヲ罰セス然ルニ裁判官ノ見込違ニ
 テ之ヲ勾留シタルカ爲メニ遂ニ逃走ノ罪ヲ犯スニ至リ
 タルモノナレハ原犯無罪ニ歸シタルトキハ其逃走ノ罪

ヲ問フヘカテサルナリト之ニ反シテ高木村田小笠原其
 他ノ諸氏ハ原犯無罪ニ歸シタルトキハ唯逃走罪ノ刑ヲ
 科スヘシト説ケリ余以爲テク或者ノ説ハ刑法草案ト治
 罪法トニ照ラシテ立法ノ精神ヲ探究シタルモノニシテ
 能ク其理ニ適スルカ如シト雖モ余未タ之ヲ以テ眞ニ立
 法ノ精神ヲ穿得シタリト爲スヲ得ス何トナレハ官ニハ
 犯罪ノ嫌疑アル者ヲ糾治スルノ權アリ從テ其間之ヲ勾
 留スルノ權アリ既ニ其權アラハ人民必スシモ之ニ服從
 セサルヘカラス然ルニ之ヲ侵シテ恣ニ逃走スル者ノ如
 キハ必ス之ヲ罪シテ以テ其權ニ制裁ヲ付セサルヘカラ
 ス且此逃走ノ罪タル逃走ノトキ既ニ成立スルモノニシ
 テ原犯ノ罪定マリタルトキ始メテ成立スルモノニ非ス

故ニ原犯ノ罪ニ付キ無罪免訴ノ言渡アリタルトキハ或
 ハ酌量減輕スヘキモ之カ爲メ其罪ヲ全免ズヘカラサル
 ナリ然リ而シテ或者ノ説亦敢テ其理ナキニ非サレハ若
 シ立法官ニ於テ治罪法第二百十七條ノ如ク明カニ原犯
 無罪免訴セラレタルトキハ逃走ノ罪ヲ問ハスト定メラ
 ル、モ余ハ敢テ之ヲ非難セサルヘシ然レトモ之カ明文
 ナキ以上ハ到底或者ノ説ニ從フヲ得サルナリ
 ○或問テ曰ク然ラハ不正ニ勾留セラレタル者逃走シタル
 トキハ如何ト曰ク現行犯ニ非サル場合ニ於テ人ヲ勾留
 シ又ハ勾留ノ期限經過シタルモ猶ホ之ヲ解放セサル場
 合等ニ於テハ未決ノ囚徒逃走スルモ之ヲ罰スルヲ得サ
 ルヘシ何トナレハ此場合ニ於テハ被告人監倉ニ在ルモ

之ヲ未決ノ囚徒トイフヲ得ス不正ノ監禁ヲ免カル、爲
メ逃走シタル尋常人ト看做サ、ルヲ得サレハナリ然レ
トモ若シ獄舎獄具ヲ毀壞シ又ハ暴行脅迫ヲ爲シタルト
キハ此各別ナル罪ヲ免カル、ヲ得サルヘシ

○佛刑法第二百四十五條 第百四十二條
ニ全文ヲ掲ク

第四百四十五條

囚徒三人以上通謀シテ逃走シタル時ハ第四百四十二條
ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ〔刑一〇セ、

○本條ハ囚徒逃走ノ罪ニ付キ其刑ヲ加重スヘキ模様ヲ
定ム

凡ソ罪犯シ易ク防キ難キモノハ其危害亦從テ大ナリト
ス故ニ犯シ易ク防キ難キ罪ハ犯シ難ク防キ易キ罪ニ適
用スヘキ刑ヨリモ重キ刑ニ處セサルヘカラス今未決既
決ノ囚徒ハ一名若クハ二名ニテ逃走ヲ企ツルモ監獄ノ
堅固ナル又看守ノ嚴密ナル之ヲ遂クルコト難ク之ヲ防
クコト易シ然レトモ三人以上共謀シ逃走ヲ企ツルトキ
ハ彼レニ餘力アルヲ以テ之ヲ遂クル難カラヌ又之ヲ防
ク易カラヌ故ニ本條ニ未決既決ヲ問ハス囚徒三人以上
通謀シテ逃走シタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フヘシト定
メタリ

第四百四十六條

囚徒ヲ逃走セシムル爲メ兇器其他ノ器具ヲ給與シ又
ハ逃走ノ方法ヲ指示シタル者ハ三月以上三年以下ノ
重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス囚

テ囚徒ノ逃走ヲ致シタル時ハ一等ヲ加フ〔刑一〇九〕

○本條ハ囚徒逃走ノ罪ニ付キ從犯ノ特例ヲ定ム
總則ニ依ルニ罪ヲ犯スコトヲ知テ器具ヲ給與シ又ハ誘
導指示シ以テ正犯ヲ幫助シ犯罪ヲ容易ナラシメタル者
ハ之ヲ從犯トシ正犯ノ刑ニ一等ヲ減スルモノナリ本條
ニ於テハ之カ二箇ノ例外ヲ設ケタリ第一囚徒ヲ逃走セ
シムル爲メ兇器其他ノ器具ヲ給與シ又ハ逃走ヲ指示シ
タル者ハ之ヲ別罪トシテ罰シ囚徒逃走シタルト否トテ
問ハサルコト第二其刑タル正犯ノ刑ニ一等ヲ減スルニ
非スシテ囚徒ノ逃走ヲ致サ、ルトキハ囚徒暴行脅迫ヲ
爲シテ逃走シタル者ノ刑ト同ク三月以上三年以下ノ重
禁錮ニ處シ尙ホ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス若

シ囚徒ノ逃走ヲ致シタルトキハ之ニ一等ヲ加フルコト
是レナリ此ノ如ク特例ヲ設ケテ以テ之ヲ嚴罰スル所以
ノモノハ是レ囚徒ハ監獄内ニ在ルモノナレハ人ノ幫助
ヲ受クルコト難ク且器具ヲ給與シ又ハ方法ヲ指示スル
者ハ身體ノ自由ヲ熱望スルニ出ルモノニ非サレハ其情
重キカ故ナリ
世間或ハ逃走ヲ幫助シタル者ヲ罰スルニ逃走者ノ刑ヨ
リモ重キ刑ヲ以テスルヲ怪ム者アラソ「ボワソナド」先生
能ク簡ニ之ヲ明辯セリ刑法草案註解ニ曰ク略蓋シ本法
之ヲ逃走罪ノ豫備ノ行爲其附從ト看做サ、ル所以ノモ
ノハ左ノ二箇ノ理由ヲ熟思セハ其旨趣ヲ證明スルヲ得
ヘシ第一凡ソ囚徒ハ他ヨリ之ニ逃走ノ手段ヲ授ケサレ

ハ多クハ皆ナ逃走スル能ハサルヘキノ理第二逃走シタル囚徒ハ人ノ天然ノ性情ニ從ヒ且殆ト忍フヘカラサル自由ヲ愛スルノ情ニ從フモノナリト雖モ身繫獄セラル、ニ非スシテ囚徒ニ逃走ノ手段ヲ授ル者ハ公ケノ安寧ニ重大ノ妨害ヲ加フルノ理是レナリト實ニ囚徒ハ人ノ幫助ヲ受クル難ク其逃走ヲ爲ス容易ナラサルノミナラス亦其自由ヲ熱望スルノ餘其繫囚ヲ免カレントスルモノナレハ其害大ナラサルニ非スト雖モ其情亦大ニ憐ムヘキモノアリ然ルニ身囚徒ニ非スシテ囚徒ノ逃走ヲ幫助スル者ハ其害大ニ其情疾ムヘシ故ニ之ヲ嚴罰スルモノナリ

或問テ曰ク囚徒逃走ノ罪ハ未遂犯ヲ罰ス今器具ヲ給與

シ又ハ方法ヲ指示シ囚徒之カ爲メニ逃走未遂罪ヲ犯シタルトキハ之ニ一等ヲ加ヘタルノ刑ヲ科スヘキ乎ト曰ク本條ニ所謂囚徒ノ逃走ヲ致シタルトハ囚徒ノ逃走ヲ遂ケシメタル場合ヲ指スモノナリ故ニ未遂犯ニ止マリタルトキハ其刑ヲ加等スヘカラサルナリ

或問テ曰ク囚徒逃走ヲ爲スニ際リ他ノ罪ヲ犯シタルトキハ之ニ器具ヲ給與シ若クハ方法ヲ指示シタル者ハ如何處分スヘキ乎ト曰ク器具ヲ給與シ若クハ方法ヲ指示シタルコト、囚徒ノ犯シタル罪ト關係ヲ有スルトキハ總則ニ從ヒ從犯ヲ以テ論シ數罪俱發ノ例ニ照シテ處斷スヘキナリ

○佛刑法第二百三十八條末

第二百四十七條

同第二百三十九條 末項 同上

同第二百四十條 末項 同上

同第二百四十一條 五月八日十三日改正 暴行ヲ爲シ又ハ

獄舎ヲ破壊シテ逃走ヲ爲シタルトキハ其逃走ノ用
ニ供スヘキ器具ヲ給與シテ之ヲ幫助シタル者ニ適
用スヘキ刑左ノ如シ

逃走シタル囚徒第二百三十八條ニ定メタル者ナル
トキハ三月以上二年以下ノ禁錮又第二百三十九條
ニ定メタル者ナルトキハ一年以上四年以下ノ禁錮
又第二百四十條ニ定メタル者ナルトキハ二年以上
五年以下ノ禁錮及ヒ五十フラン以上二千フラン
以下ノ罰金ヲ科スルモノトス

右最後ノ場合ニ於テハ犯人ハ尙ホ其刑ヲ受ケ了リ
タル日ヨリ五年以上十年以下ノ時間此法典第四十
二條ニ定メタル權利ヲ剝奪セラルヘシ 刑九、一、四
以下、二、
四、六、

同第二百四十二條 前ニ記シタル何レノ場合ニ於テ
モ逃走スルヲ得セシメ又ハ之ヲ容易ナラシメタル
者看守又ハ獄監ニ賄賂ヲ遺リ又ハ之レト通謀シテ
其事ヲ爲シタルトキハ該看守獄監ト同一ノ刑ニ處
セラルヘシ 刑二、三、八以下、

同第二百四十三條 囚徒ニ兵器ヲ送り之カ爲メ其獄
舎ヲ毀壞シ又ハ暴行ヲ爲シテ逃走スルヲ得セシメ
タルトキハ之ニ加功セシ看守者護送者ハ無期ノ徒

刑ニ處ヒラレ其他ノ者ハ有期ノ徒刑ニ處セラレヘシ
〔刑〕七、一五、一六、一八、一九、二二、二三、二四、二五、二六、二七、二八以下、三三、三四、三六、四一、四七、

同第二百四十六條 何人ニ限ラス逃走又ハ逃走ノ試犯ヲ幫助シタルカ爲メ六月以上ノ禁錮ニ處セラレタル者ハ尙ホ五年以上十年以下ノ時間特別ノ監視ニ付セラレルヘシ〔刑〕一、一四、四四以下、

第四百四十七條

囚徒ヲ劫奪シ又ハ暴行脅迫ヲ以テ囚徒ノ逃走ヲ助ケタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ輕懲役ニ處ス

一 本條ノ主旨

二 第一項ノ解

三 第二項ノ解

〔一〕〇本條ハ囚徒ヲ劫奪シ又ハ暴行脅迫ヲ以テ之ヲ逃走セシメタル者ノ罪ヲ定ム

〔二〕〇第一項 本項ハ未決ノ囚徒及ヒ輕罪以下ノ囚徒ヲ劫奪シ又ハ暴行脅迫ヲ以テ之ヲ逃走セシメタル者ノ罪ヲ定ム

前條既ニ開說シ如ク囚徒ハ外援幫助ナキトキハ容易ニ逃走ヲ爲スヲ得ス故ニ暴行脅迫ヲ以テ囚徒ヲ劫奪シ若クハ其逃走ヲ助成シ容易ナラサルコトヲシテ容易ナラシメタル者ハ嚴ニ之ヲ罰セサルヘカラス是レ本項ニ

一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ストアル所以ナリ

〔三〕〇第二項 本項ハ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ルトキハ輕懲役ニ處スヘキ旨ヲ定ム

重罪既決囚ハ之ヲ輕罪以下ノ囚徒ニ比スレハ嚴ニ之ヲ懲罰シテ以テ世安ヲ維持セサルヘカラス然ルニ今暴行脅迫ヲ以テ之ヲ劫奪シ若クハ其逃走ヲ助成シタル者ハ其公安ヲ害スル亦從テ大ナリ故ニ本項特ニ之ヲ嚴罰シタルナリ

或問テ曰ク本條以下ニ於テ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ニ係ルトキ刑ヲ加重スルノ法アリ是レ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ナルコトヲ知テ犯シタルトキノミ其刑ヲ加

重スルノ意ナル乎將ク其知不知ヲ問ハサル乎ト曰ク總則第七十七條ニ罪本ト重カル可クシテ犯ス時知ラサル者ハ其重キニ從テ論スルヲ得ストアリ故ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ナルコトヲ知ラスシテ犯シタル者ハ固ヨリ之ヲ重キ刑ニ問フヘカラサルナリ而シテ第五百十條ノ罪ハ一ノ無意犯ナレハ或ハ知不知ヲ問フヘカラスト云フ者アリ或ハ仍ホ之ヲ問フヘシト云フ者アリ實ニ第五百十條ノ罪ハ一ノ無意犯ナレハ唯其結果ヲ以テ論シ意思ノ如何ヲ問フヘカラサルカ如シ然レトモ一方ヨリ之カ觀察ヲ下ストキハ重罪ノ既決囚ハ一層嚴密ナル注意ヲ要スヘキモノナルニ自己ノ解怠ニ因リ其逃走ヲ覺悟セサル者ハ之ヲ重ク罰セサルヘカラスト雖モ其

看守シ若クハ護送スル囚徒重罪ノ刑ニ處セラレタル者ナルコトヲ知ラサルトキハ理應ニ重ク罰スヘカラサルカ如シ實際囚徒ヲ看守護送スル者ニシテ其輕罪囚タルカ將タ重罪囚タルカヲ知ラサルコトナカルヘシト雖モ萬一之ヲ知ラサリシトキハ重キニ從テ論セサル方蓋シ法經ヲ失セサルニ庶幾カラシカ

第四百四十八條

囚徒ヲ看守シ又ハ護送スル者囚徒ヲ逃走セシメタル時ハ亦前條ノ例ニ同シ

○本條ハ看守者又ハ護送者囚徒ヲ逃走セシメタル者ノ罪ヲ定ム

囚徒ヲ看守シ又ハ之ヲ護送スル者ハ職務上囚徒ノ逃走

ヲ豫防シ深ク省慮ヲ加ヘサルヘカラズ然ルニ却テ之ヲ逃走セシムル如キハ獨リ公益ヲ害スル大ナルノミナラス亦其職務ヲ瀆スモノナリ況ヤ此罪ヲ犯スコト常人ニ比スレハ甚タ容易ナルニ於テチヤ故ニ暴行脅迫ヲ以テモスト雖モ仍ホ前條ト同ク之ヲ罰スヘシト定メタリ

○佛刑法第二百三十七條 囚徒逃走シタルトキハ使吏

備警兵若クハ護衛兵守備兵ノ長官又ハ其配下ノ士官門監看守獄監其他囚徒ヲ伴行シ護送シ又ハ之ヲ看守スヘキ者ハ左ノ如ク罰セラレヘシ

同第二百三十八條 五月十八日改正 逃走ヲ爲シタル

者輕罪又ハ加辱ノミノ刑ニ該ルヘキ重罪ノ被告人又ハ此等ノ罪ノ一ノ爲メニ刑ノ言渡ヲ受ケタル者

又ハ俘虜ナルトキ看守又ハ伴行者懈怠アルニ於テハ六日以上二月以下ノ禁錮ニ處セラルヘシ若シ故テニ其逃走ヲ見遁シタルトキハ六月以上二年以下ノ禁錮ニ處セラルヘシ

囚徒ヲ看守シ又ハ之ヲ伴行スルノ任ナキ者其逃走スルヲ得セシメ又ハ之ヲ容易ナラシメタルトキハ六日以上三月以下ノ禁錮ニ處セラルヘシ刑八、九、四〇以下

治一三一、一七九、四一以下

同第二百三十九條 逃走ヲ爲シタル囚徒若クハ其中ノ一人有期ノ加辱ノ刑ニ該ルヘキ重罪ノ被告人又ハ此罪ノ一ノ爲メニ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ナルトキ看守又ハ伴行者懈怠アルニ於テハ二月以上四月

以下ノ禁錮ニ處セラルヘシ若シ故テニ其逃走ヲ見遁シタルトキハ懲役ニ處セラルヘシ

囚徒ヲ看守スルノ任ナキ者其逃走スルヲ得セシメ又ハ之ヲ容易ナラシメタルトキハ三月以上二年以下ノ禁錮ニ處セラルヘシ刑七、九、二一以下、八二以下、四七、二四以下

同第二百四十條 逃走ヲ爲シタル者又ハ其中ノ一人死刑若クハ無期刑ニ該ルヘキ重罪ノ被告人又ハ此等ノ刑ノ一ヲ言渡サレタル者ナルトキ看守又ハ伴行者懈怠アルニ於テハ一年以上二年以下ノ禁錮又故テニ其逃走ヲ見遁シタルトキハ有期徒刑ニ處セラルヘシ

伴行又ハ看守ノ任ナキ者其逃走スルヲ得セシメ又ハ之ヲ容易ナラシメタルトキハ一年以上五年以下ノ禁錮ニ處セラルヘシ〔刑七、九、一、九、二、〇以下、四、七、二、三、九、二、四〕

同第二百四十三條

第百四十六條ニ全文ヲ掲ク

同第二百四十六條

同上

第四百四十九條

前數條ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス〔刑一、一、二〕

○本條ハ前數條ニ記載シタル輕罪ノ未遂犯ヲ罰スヘキ旨ヲ定ム

囚徒逃走ノ罪ハ世安ヲ擾乱スル特ニ大ナルモノナリ故

ニ輕罪ノ未遂犯ト雖モ仍ホ重罪ノ未遂犯ト同ク總則ニ從ヒ之ヲ罰スヘシト定メタリ

第四百五十條

看守又ハ護送者其懈怠ニ因リ囚徒ノ逃走ヲ覺ラサル時ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス〔刑七、七〕若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス同上

○本條ハ看守又ハ護送者懈怠ニ因リ囚徒ノ逃走ヲ覺ラサル者ノ罪ヲ定ム

看守護送者ハ職務上囚徒ヲ看護シ以テ其逃走ヲ防カサルヘカラス然ルニ其盡スヘキ職務ヲ盡サス懈怠ニ因リ其職務ヲ抛却シ囚徒ノ逃走ヲ覺悟セサルトキハ之ヲ罰

シテ以テ其失職ヲ責メサルヘカラス然レトモ此罪タル
懈怠ニ基由スルモノニシテ固ヨリ有意犯ニ非ス故ニ本
條唯罰金ニ處シテ體刑ヲ科セサルナリ
本條第二項ニ於テハ若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒
ニ係ルトキハ第一項ノ刑ニ二等ヲ加ヘタル所ノ三圓以
上三十圓以下ノ罰金ニ處スヘシト定メタリ是レ重罪ノ
既決囚ハ其罪重キカ故ニ之ヲ看護スルニ一層嚴密ナル
注意ヲ要スルヲ以テナリ

○佛刑法第二百三十八條項一 第百四十七條
ニ全文ヲ掲ク

同第二百三十九條項一 同上

同第二百四十條項一 同上

同第二百四十七條 懈怠アル看守又ハ伴行者ニ對シ

前ニ定メタル刑ハ囚徒逃走後ニ犯シタル重罪輕罪
ノ爲メニ逮捕セラレタルニ非スシテ逃走ヨリ四月
内ニ捕ニ就キ又ハ自ラ訴ヘ出タルトキハ止ムヘシ

第二百五十一條

犯罪人又ハ逃走ノ囚徒及ヒ監視ニ付セラレタル者ナ
ルヲ知テ之ヲ藏匿シ若クハ隱避セシメタル者ハ十
一日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以
下ノ罰金ヲ附加ス
若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ一等ヲ
加フ

- 一 本條ノ主旨
- 二 第一項ノ解

三 第二項ノ解

四 本條ノ罪ヲ罰スルニ輕禁錮ヲ以テシタルノ當否
ヲ論ス

〔一〕○本條ハ罪人ヲ藏匿シ及ヒ之ヲ隱避セシメタル者ノ罪
ヲ定ム

罪人ヲ藏匿シ及ヒ之ヲ隱避セシメタル者ハ皮相上其共
犯人タルカ如シ故ニ海外諸國ノ法律中往々之ヲ共犯ト
シテ罰スルモノアリ然レトモ曩ニ共犯ノ事ヲ論スルニ
方リ詳説セシ如ク共犯ハ犯罪前若クハ犯罪中其事ニ加
功スルニ因テ成ルモノニシテ犯罪後ハ之ニ加功セント
スルモ事既往ニ屬スレハ能ハズ從テ共犯ヲ形成スルコ
ト決テ之レナシ故ニ吾カ刑法ニ於テハ罪人ヲ藏匿シ及

ヒ之ヲ隱避セシメタルノ罪ヲ別罪トシテ論シタリ

〔二〕○第一項 本項ハ犯罪人又ハ逃走ノ囚徒及ヒ監視ニ付

セラレタル者ナルコトヲ知テ之ヲ藏匿シ若クハ隱避セ
シメタル者ノ罪ヲ定ム

官ニハ公安ヲ保維シソカ爲メ犯人ト思料スヘキ者ヲ糾
治シ果テ罪アルトキハ之ニ適刑ヲ言渡シ其刑ヲ執行ス
ルノ權アリ人民タル者ハ此權ヲ遵奉シ決テ之ヲ妨害ス
ヘカラス然ルニ犯罪人又ハ逃走ノ既決未決囚タルコト
ヲ知テ之ヲ藏匿シ若クハ之ヲ隱避セシメタル者ハ其公
權ヲ蔑如シ世安ヲ擾亂スル少カラス故ニ本條ニ於テハ
此ノ如キ者ヲ罰スルニ十一日以上一年以下ノ輕禁錮及
ヒ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ以テセリ

本項ニ所謂犯罪人ノ語中ニハ如何ナル者ヲ包含スル乎
世間往々論アリ因テ左ニ數說ヲ掲ケ然ル後其眞義ヲ示
サシ

甲說 犯罪人トハ罪ヲ犯シタル人ノ謂ナリ故ニ罪ヲ犯
シタル人ナルコトヲ知テ之ヲ藏匿シ若シハ之ヲ隱避セ
シメタル者ハ本項ニ依リ之ヲ罰スヘシト

乙說 凡ソ人民ハ刑ノ言渡確定スルニ至ルマテハ無罪
人ヲ以テセサルヘカラス故ニ犯罪人トハ刑ノ言渡ヲ受
ケ其言渡確定シテ動カスヘカラスナルニ至リタル者ヲ指
スモノト解セサルヘカラス然ルニ本項ニハ囚徒ノ語ア
ルヲ以テ犯罪人ノ中ニハ闕席裁判ヲ受ケタル者罰金又
ハ科料ノ言渡ヲ受ケタル者ノミヲ包含スヘシト

丙說 本項ニ所謂犯罪人ヲ解シテ刑ノ言渡ヲ受ケ其言
渡確定動カスヘカラスナルニ至リタル者ト解スルハ少シ
狹隘ニ失スルノ恐アリ故ニ犯罪人トハ罪ヲ犯シ事既ニ
官ニ發覺シタル者ト解セサルヘカラス是レ舊法捕亡律
藏匿罪人條ニ官司人ヲ差ハシ追喚スル罪人ナルコトヲ知
テ云々トアリ又刑法草案第百八十五條ニ已決未決ノ囚
徒又ハ監視ニ付セラレタル者及ヒ發覺シタル犯人云々
トアリシニ因テ推知スヘシト
斯ク三說ヲ列舉シ一目之ヲ瞰下シ觀テ本項ノ主旨ヲ審
案スルニ本項ハ職トシテ世安ヲ妨害シ證據ヲ湮滅シ刑
罰ヲ逃遁セシムルノ弊ヲ防クニ在リ故ニ乙說ノ如ク犯
人ノ語ヲ解シテ一ニ刑ノ言渡ヲ受ケ其言渡確定動カス

へカラサルニ至リタル者ニ限レリト爲スハ頗ル狹隘ニ失スルモノニシテ立法ノ精神ニ非ラサルナリ又丙説ハ刑法草案及ヒ舊法捕亡律藏匿罪人條ニ依リ立法ノ精神ヲ忖度セルモノニシテ一應其理アリト雖モ未タ以テ正鵠ヲ得タリト爲スヲ得ス何トナレハ舊法及ヒ草案ニハ明カニ犯罪人ノ區域ヲ畫シ之カ制限ヲ指示シタリト雖モ本條ニハ別ニ此ノ如キモノアラサレハ故ナク之カ制限ヲ設クルヲ得サレハナリ余ハ甲説ニ從ハシ抑犯罪人ノ名稱ハ容易ニ之ヲ付スヘキモノニ非ラス未決中ハ被告人ヲ以テ之ヲ稱スルモ決テ犯罪人ト稱スルコトナシ然ルニ今茲ニ未決中ノ者ヲモ包含セシムルニ犯罪人ノ語ヲ以テシタルモノハ蓋シ其故アリ犯罪人ヲ藏匿シ若

クハ之ヲ隱避セシメタルノ罪ハ其果テ罪ヲ犯シタル者ナルトキハ之ヲ罰スヘシト雖モ若シ其無罪人タルトキハ之ヲ罰セサル旨ヲ示シカ爲メナリ故ニ犯罪人ノ語ハ讀テ字ノ如ク罪ヲ犯シタル人ト解シ既決未決ヲ論ビス又其官ニ發覺シタルト否トヲ問フヘカラサルナリ然レトモ實際多クハ發覺後ノ者ニ限レルナラソ何トナレハ藏匿スルトイヒ又隱避セシムルトイフ何レモ之ニ相對スルモノナカルヘカラス即チ官ニ於テ罪人ト思料シ之ヲ追喚ス故ニ人之ヲ藏匿シ之ヲ隱避セシムルナリ官之カ追喚ヲ爲サル者ヲ藏匿シ若クハ隱避セシムル如キハ實際殆ト之レナカルヘシ萬一此ノ如キ者アルモ其果テ罪ヲ犯シタル者ナルトキハ之ヲ罰シテ敢テ其妨

ケナシ何トナレハ人民ニハ罪人ヲ告發スルノ義務ナキ
モ之ヲ藏匿シ若クハ隱避セシムルノ權利ナキヤ亦明カ
ナリ且官未タ其者ヲ追喚セスト雖モ之ヲ藏匿シ若クハ
隱避セシムル者アルニ於テハ大ニ其發覺ヲ妨クルノ憂
アレハ本項ニ定メタル刑ノ範圍内ニ於テ輕ク之ヲ罰ス
ルコト決テ不當ニ非サルナリ

或問テ曰ク然ラハ罪ヲ犯セシ者ナリト信シテ故テニ之
ヲ藏匿シ若クハ隱避セシメタリト雖モ其者結局無罪タ
ルトキハ之ヲ罰セサル乎ト曰ク本項ニハ犯罪人ナルコ
ト知テ之ヲ藏匿シ若クハ隱避セシメタル者云々トアリ
故ニ當初犯罪人ナリト信シタリト雖モ事誤解ニ出テ其
實無罪人タルトキハ之ヲ罰スルヲ得サルナリ然レトモ

不
可
な
る

此レ唯解法上ノ論ノミ立法上ハ決テ其當ヲ得タルモノ
トイフヲ得ス左ニ其所以ヲ辨セン

抑本條ノ罪ハ公權ニ對スルノ罪ナリ官ニハ罪ヲ犯シタ
リト思料スル者ヲ追喚シ其罪ノ有無ヲ糾治スルノ權ア
リ此權タル公權ノ一部ニ屬スルモノナレハ人民タル者
必ス之ヲ遵奉スヘク決テ之ヲ妨礙スヘカラス故ニ結局
無罪ニ歸スル者ト雖モ官ノ嫌疑ヲ受ケ官ニ於テ之ヲ追
喚スル者ヲ藏匿シ若クハ隱避セシメ以テ官ノ處分ヲ妨
礙スル者ハ之ヲ不問ニ付スルノ理アルヘカラス若シ然
ラスシテ之ヲ不問ニ付スヘシトセハ實際甚キ不都合ヲ
生スヘシ例ヘハ罪人ヲ藏匿シ若クハ之ヲ隱避セシメ之
カ爲メ罪人期滿免除ヲ得タル場合ノ如キハ藏匿者其目

的ヲ達シタルガ爲メ却テ其刑ヲ免カル、ニ至ルノ類是レナリ故ニ本項ニ所謂犯罪人ノ語ハ宜ク之ヲ改メテ被告人トセラレシコトヲ希望ス此ノ如ク改正スルトキハ被告人タルコトヲ知テ之ヲ藏匿シ若クハ隱避セシメ其者果テ被告人タルトキハ結局無罪ニ歸スルモ仍ホ隱匿者ヲ罰スルヲ得ヘク且被告人ノ語タル事社會ニ發覺シタル後ノ稱ナレハ未ダ社會ニ發覺セサル者ヲ其中ニ包含セシメサルヲ得ヘシ

〔三〕〇第二項 本項ハ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ルトキハ一等ヲ加フヘキ旨ヲ定ム

未決中ノ者ハ其刑未タ定ラス故ニ別ニ區別ヲ設ルヲ得スト雖モ既決囚ハ其刑既ニ定マレルヲ以テ一ノ區別ヲ

設ケ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ルトキハ一等ヲ加ヘ十三日以上一年三月以下ノ輕禁錮二圓五十錢以上二十五圓以下ノ罰金ニ處スヘシト定メタリ是レ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ヲ藏匿シ若クハ之ヲ隱避セシメタル者ハ輕罪以下ノ刑ニ處セラレタル者ヲ藏匿シ若クハ隱避セシメタル者ヨリモ其害大ナレハナリ

本項ニ付テハ一ノ注意ヲ要スルモノアリ重罪ノ刑ニ附加スル監視ニ付セラレタル者ナルコトヲ知テ之ヲ藏匿シ若クハ隱避セシメタル者ハ本項ニ依リ之ヲ罰スヘキ乎將タ前項ニ依リ之ヲ罰スヘキ乎ノ点是レナリ抑重罪ノ刑ニ附加スル監視ハ即チ重罪ノ刑ナレハ本項ニ依リ之ヲ罰スヘキカ如シト雖モ監視中ノ者ハ之ヲ囚徒トイ

ラヘカラス故ニ重罪ノ主刑ヲ遁レタル者ニ係ルトキハ
本項ニ依リ之ヲ罰スヘキモ重罪ノ刑ニ附加スル監視中
ノ者ニ係ルトキハ仍ホ前項ニ依テ處斷セサルヘカラサ
ルナリ

〔四〕○或問テ曰ク何故ニ本條ノ罪ヲ罰スルニ定役ナキ輕禁
錮ヲ以テシタル乎ト曰ク高木氏刑法ハ本條ト第三百九
十九條以下トヲ比照シテ其刑質ヲ異ニスル所以ヲ詳論
セリ曰ク夫ノ贓物ヲ寄藏故買スルカ如キハ是レ間接ニ
其犯罪ヲ勸ムル者ナリ如何トナレハ若シ其盜賊タル
ヲ知テ受寄若クハ故買スル者ナキ時ハ盜其財物ヲ得ル
モ恐ラクハ用フル所ナカル可シ凡ソ他人ノ財物ヲ盜取
スル者ハ多クハ其贓物タルヲ知テ之ヲ受寄故買スル者

アルヲ恃ムカ故ナリ而シテ此條載スル所ノ罪人ノ身體
ヲ藏匿隱避スルカ如キハ夫ノ諺ニ所謂窮鳥懷ニ入ル獵
人猶ホ且之ヲ捕ラサルノ意ヲ以テスル者多ク其情甚々
惡ム可キナシ之ヲ贓物ヲ受寄シ若クハ之ヲ故買シテ不
正ノ利ヲ圖ル者ニ比スレハ其罪自ラ輕カラサルヲ得ス
是レ其彼ニ長期ノ重禁錮ヲ科シ是ハ輕禁錮ニ止マル所
以ナリト本條ト第三百九十九條以下トヲ比照スルトキ
ハ彼此其刑質ヲ異ニスルノ理アルカ如シト雖モ余ハ本
條ノ罪ヲ罰スルニ輕禁錮ヲ以テシタルハ能ク其當ヲ得
タルモノトスルヲ得ス今元老院會議筆記ニ依ルニ草案
ニ重禁錮トアリシヲ改メテ輕禁錮ト爲シタルハ專ラ罪
人ヲ隱匿スルハ惻隱ノ情ヨリ生シ人情アル犯罪ナリト

ノ理ニ由リシモノ、如シ然レトモ余ハ此ノ如キ單純ナル考案ヲ以テ輕禁錮ヲ適用スルニ充分ナル理由ト爲スヲ得サルナリ抑輕禁錮ハ國事犯非國事犯ニ通シ用フヘキ刑ナリト雖モ之ヲ非國事犯ニ適用スル場合ハ深ク犯人ノ心術ヲ懲戒スルニ及ハサルモノナリ今罪人隱匿ノ罪ハ或ハ惻愷ノ心ヨリ生スルコトアルヘシト雖モ多少ハ私利ヲ謀ルノ所爲ニ出ツ且之ヲ以テ輕禁錮ヲ適用スルノ理由ト爲サハ被告人ヲ曲庇スル者ノ如キ亦或ハ惻愷ノ心ヨリ生スルコトアルヲ以テ之ヲ輕禁錮ニ處セサルヘカラサルニ至ラフ故ニ國事犯人ヲ藏匿シ若クハ隱避セシムル者ハ格別他ハ重禁錮ニ處スル方蓋シ前後ニ照シテ其刑ノ權衡ヲ失ハス事實ニ考テ其孚當ヲ見ルヘシト信ス

○佛刑法第二百四十八條 施體ノ刑ニ該ルヘキ重罪ヲ犯シタル者ナルコトヲ知テ之ヲ隱匿シ又ハ隱匿セシメタル者ハ三月以上二年以下ノ禁錮ニ處セラレヘシ〔刑七、九、四、〇以下、治一七、九〕

若シ隱匿者犯人ノ尊屬卑屬ノ親既ニ離婚シタルニ關セズ其配偶者兄弟姊妹又ハ同上ノ等級ノ姻族ノ親ナルトキハ此限ニ在ラズ〔民七三五以下、〇〕

第二百五十二條

他人ノ罪ヲ免カレシメントテ圖リ其罪證ト爲ル可キ物件ヲ隱蔽シタル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

一 本條ノ解

二 罪證ト爲ルヘキ物件ヲ隠蔽シタルモ其目的トス

ル所ノ人無罪タルトキハ如何

三 隠蔽者ノ免カレシメント欲シタル罪ト實際ノ罪

ト異ナルトキハ如何

(一)〇本條ハ他人ノ罪ヲ免カレシメント圖リ其罪證ト

爲ルヘキ物件ヲ隠蔽シタル者ノ罪ヲ定ム

刑事ノ証據ハ民事ノ証據ト異ナリテ豫メ存スルモノ少

ク之ヲ蒐集スル難ク其散佚スル易シ故ニ罪證ト爲ルヘ

キ物件ハ人民タル者宜ク之ヲ官ニ差出シ若クハ之ヲ保

存シテ以テ事實發見ヲ容易ナラシメサルヘカラス然ル

ニ之ヲ官ニ差出シ若クハ保存セサルノミナラス罪人ヲ

免カレシメント欲スルノ意ヲ以テ之ヲ隠蔽スル者ハ罪

人ヲ曲庇シ官ノ處分ヲ妨クルモノナレハ之ヲ不問ニ付

スルヲ得ス是レ本條ノ設ケアル所以ナリ

本條ノ罪ヲ組成スルニハ二箇ノ條件ヲ必要トス曰ク罪

人ヲ免カレシメント圖リタルコト曰ク隠蔽シタル

物件罪ヲ證明スルニ足ルヘキモノナルコト即チ是レナ

リ左ニ逐一之ヲ開説スヘシ

第一 本條ノ罪ハ罪人ヲ曲庇スルノ意アルニ因テ成立

スルモノナリ若シ罪人ヲ曲庇スルノ意ナキトキハ其社

會ニ害ヲ及ホスノ點ニ至テハ敢テ異ナラサルモ其罪證

ト爲ルヘキ物件ヲ隠蔽シタルハ全ク意ナキノ所爲ナレ

ハ之ヲ以テ社會命令權ヲ犯シタルモノトシテ罰スルヲ

得ス又人民ニハ一ノ物件ヲ破毀シ若クハ滅盡セシムル
 ニ方リ一々其罪證ト爲ルヘキモノナリヤ否ヲ取調フル
 ノ義務ナシ若シ人民ニ此ノ如キ義務ヲ負ハシムルトキ
 ハ其世安ヲ害スルコト却テ罪證ト爲ルヘキ物件ヲ隱蔽
 スルヨリモ一層太甚シカラシ何トナレハ世間ノ流通ヲ
 妨ケ人ノ處置權ヲ害スル殊ニ甚シケレハナリ
 或問テ曰ク他人ノ罪ヲ免カレシメシメコトヲ圖ルトハ其
 罪人ノ誰タルコトヲ知テ而シテ之ヲ免カレシメシメコト
 ナ圖ルナイフ乎ト曰ク否其罪人ノ誰タルヲ知ルト否ト
 ナ要セサルナリ何トナレハ罪人ノ誰タルコトヲ知ラズ
 ト雖モ罪證ト爲ルヘキ物件ナルコトヲ知テ故ラニ之ヲ
 隱蔽シ社會ノ罪人ヲシテ其罪ヲ免カレシメシメコトヲ圖
 リ官ノ處分ヲ妨礙スル者ハ公權ヲ蔑如シ世安ヲ擾亂ス
 ルヲ以テ必スシモ之ヲ罰セサルヘカラサレハナリ例ヘ
 ハ甲ナル者一日山野ヲ通行ス路傍ニ銃創ヲ負テ死セシ
 者アルヲ認メ之ヲ殺シタル者ノ誰タルヲ知ラスト雖モ
 其人ノ罪ヲ免カレシメシメシメカ爲メ屍體ノ傍ニ遺チタル
 囊ヲ隱蔽シタル場合ノ如キ殺人罪ヲ犯セシ人ノ誰タル
 ナ知ラスト雖モ他人ノ罪ヲ免カレシメシメシメカ爲メ罪證ト
 爲ルヘキ物件ヲ隱蔽シタルモノナレハ必スシモ之ヲ罰
 セサルヘカラサルナリ
 第二 他人ノ罪ヲ免カレシメシメコトヲ圖リ物件ヲ隱蔽
 シタリト雖モ其物件タル罪ヲ證明スルニ足ラサルモノ
 ナルトキハ罪證ト爲ルヘキ物件ヲ隱蔽シタルニ非スシ

テ罪證ト爲ルヘカラサル物件ヲ隠蔽シタルモノナレハ
 毫モ其社會ヲ害スルコトナシ故ニ本條ニ依リ之ヲ罰ス
 ルヲ得サルナリ例ヘハ路傍ニ屍體アリ甲通行ノ際其傍
 ラニ友人乙ノ蓑囊アルヲ認メ竊ニ乙ノ罪ヲ免カレシメ
 シカ爲メ其蓑囊ヲ隠蔽シタリ然ルニ其實乙ハ其身體ヲ
 防衛セシカ爲メ已ムヲ得スシテ人ヲ殺シタルニシテ其
 所爲罪ト爲ラサルトキ又ハ乙ノ其人ヲ殺シタルニ非ス
 シテ乙該所ヲ通行スルノ際誤テ蓑囊ヲ遺失シタルモノ
 ナルトキハ其蓑囊タル罪證ト爲ルヘキモノニ非ス故ニ
 甲之ヲ隠蔽シタルモ本條ニ依リ之ヲ罰スルヲ得サルナ
 リ

(二二〇) 或問テ曰ク若シ隠蔽シタル物件ハ罪證ト爲ルヘキモ

ノナルモ其罪ヲ免カレシメント欲スル人無罪タルトキ
 如何スヘキ乎ト曰ク此點ニ付テハ甲乙二説アリ甲曰
 其目的トスル所ノ人無罪タルトキハ之ヲ罰スヘカラ
 ス何トナレハ此場合ニ於テハ一ノ無効犯ナレハナリト
 乙曰ク其目的トスル所ノ人無罪タルモ其物件タル罪證
 ト爲ルヘキモノナルニ於テハ其公益ヲ害スルノ點ニ至
 テハ一ナリ故ニ仍ホ之ヲ罰スヘシト蓋シ本條ニハ他人
 ノ罪ヲ免カレシメント欲スル人無罪タルトキハ其目的
 トスル所ノ人無罪タルトキハ其效ナキヲ以テ之ヲ罰ス
 ヘカラサルカ如シト雖モ本條ノ罪ハ社會ノ罪人ヲ免カ
 レシメンカ爲メ裁判所ノ處分ヲ妨礙スルニ因テ成立ス
 ルモノニシテ甲者ヲ免カレシメンカ爲メナルト乙者ヲ

ノナルモ其罪ヲ免カレシメント欲スル人無罪タルトキ
 如何スヘキ乎ト曰ク此點ニ付テハ甲乙二説アリ甲曰
 其目的トスル所ノ人無罪タルトキハ之ヲ罰スヘカラ
 ス何トナレハ此場合ニ於テハ一ノ無効犯ナレハナリト
 乙曰ク其目的トスル所ノ人無罪タルモ其物件タル罪證
 ト爲ルヘキモノナルニ於テハ其公益ヲ害スルノ點ニ至
 テハ一ナリ故ニ仍ホ之ヲ罰スヘシト蓋シ本條ニハ他人
 ノ罪ヲ免カレシメント欲スル人無罪タルトキハ其目的
 トスル所ノ人無罪タルトキハ其效ナキヲ以テ之ヲ罰ス
 ヘカラサルカ如シト雖モ本條ノ罪ハ社會ノ罪人ヲ免カ
 レシメンカ爲メ裁判所ノ處分ヲ妨礙スルニ因テ成立ス
 ルモノニシテ甲者ヲ免カレシメンカ爲メナルト乙者ヲ

免カレシメシカ爲メナルトハ敢テ其罪ニ影響ヲ及ホサ
 ルモノナリ故ニ乙説其當ヲ得タルカ如シ然レトモ余
 思フニ本件ハ宜ク區別ヲ設ケテ之ヲ説カサルヘカラス
 凡ソ隠蔽シタル物件ハ罪證ト爲ルヘキモノナルモ其罪
 チ免カレシメント圖リタル人無罪免訴ノ言渡ヲ受クル
 場合三アリ第一罪證ヲ隠蔽シタル者アルカ爲メニ無罪
 ノ言渡ヲ受ケタル場合第二罪證ヲ隠蔽シタルカ爲メニ
 非スシテ他ニ公訴消滅ノ原由アルニ因リ免訴セラレタ
 ル場合第三其罪ヲ免カレシメント圖リタル目的人ハ無
 罪ニシテ他ニ其犯人アル場合即チ是レナリ
 右第一ノ場合ニ於テハ固ヨリ罪證ヲ隠蔽シタル者ヲ罰
 セサルヘカラス何トナレハ本犯罪證ヲ隠蔽セラレタル

カ爲メニ其罪ヲ免カレタルモノナレハ之ヲ罪證ヲ隠蔽
 シタルモ仍ホ其罪ヲ免カレサリシ場合ニ比スレハ隠蔽
 者ノ罪遙ニ重ケレハナリ或曰ク罪證ヲ隠蔽セラレタル
 カ爲メナルト否トナ問ハス本犯無罪ト爲リタルトキハ
 本犯アリテ後生スル隠蔽者ノ罪ノミチ論スルヲ得ス且
 其隠蔽シタル物件罪證ト爲ルヘキモノナリヤ否ヲ確定
 スルヲ得サルヘシト曰ク否ナ罪證隠蔽ノ罪ハ本罪アリ
 テ後生スルモノナリト雖モ必スシモ相密着シテ離ルヘ
 カラサルモノニ非ス其物件タル罪證ト爲ルヘキモノニ
 シテ犯人ヲ免カレシメントカ爲メ之ヲ隠蔽シタルコト明
 了ナル以上ハ本犯爲メニ其罪ヲ免カレタルモ隠蔽者ヲ
 罰シテ敢テ其妨ケアラサルヘシ又本犯無罪ト爲リタル

トキハ其罪證ト爲ルヘキモノナリヤ否ヲ確定スルヲ得
 ストハ一應理アルカ如シト雖モ畢竟スルニ亦一ノ誤見
 ノミ今一例ヲ舉ケテ此点ヲ明了ナラシメンニ第二百十
 九條ニ偽證ノ爲メ被告人正當ノ刑ヲ免カレタル時ハ偽
 證者ノ刑前條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フトアリ若シ或者
 ノ説ニ從フトキハ偽證ノ爲メ被告人正當ノ刑ヲ免カレ
 タルトキハ偽證者ヲ罰スルヲ得サルニ至ルヘシ何トナ
 レハ偽證ヲ眞實ナリト信シ被告人ヲ無罪免訴シ若クハ
 之ニ輕キ刑ヲ適用シタル以上ハ其證言ノ偽リナルヤ否
 ヲ確定スルヲ得ストイフヲ得ヘケレハナリ抑偽證ノ爲
 メ被告人正當ノ刑ヲ免カレタルト否ト又罪證隱蔽ノ爲
 メ被告人其罪ヲ免カレタルト否トハ事本犯ニ對スルノ

言渡ニ關係ヲ有スルカ如シト雖モ而モ特立シテ之ヲ確
 定スルヲ得ルモノナリ是レ一旦正當ノ刑ヲ免カレタル
 者ハ更ニ之ヲ重ク罰スルヲ得スト雖モ隱蔽者ニ就テ其
 果テ罪證ト爲ルヘキ物件ヲ隱蔽シタリヤ否ヲ判定シ又
 偽證者ニ就テ其果テ偽證ヲ爲シタリヤ否ヲ判定スルハ
 事少ク因難ナルモ事實裁判官ノ決テ爲シ能ハサルコト
 ニ非サルナリ故ニ本犯罪證ヲ隱蔽セラレタルカ爲メ無
 罪ト爲リタルトキハ必スシモ隱蔽者ヲ罰セサルヘカテ
 サルナリ

之ニ反シ第二ノ場合ニ於テハ隱蔽者ヲ罰スルヲ得ス何
 トナレハ治罪法第九條ニ定メタル原由中ノ一アルニ因
 リ免訴スヘキ場合ニ於テハ人其罪證ト爲ルヘキ物件ヲ

10(2)
 10(2)
 20(2)

(2) 二つある方
後者も

隠蔽シタルト否トヲ問ハス到底刑ヲ受クヘカラサルモ
 ノナレハナリ
 又第三ノ場合ニ於テハ特定ノ人ヲ免カレシメント圖リ
 タルモ其特定ノ人ハ無罪ニシテ他ノ者有罪ナルモノナ
 レハ其罪證ヲ隠蔽シタルノ效果ハ生シタルモ其目的ト
 スル罪人ノ異ナリタルモノナリ故ニ本條ノ罪、罪證ヲ隠
 蔽スルヲ以テ主ナリトスル者ハ隠蔽者ヲ罰スヘシト云
 ヒ人ノ罪ヲ免カレシムルヲ以テ主ナリトスル者ハ之ヲ
 罰スヘカラスト云フ各其理アリ余思フニ此場合ハ恰モ
 殺人毆打ノ場合ニ於テ誤テ人ヲ殺シ若シハ人ヲ毆打シ
 タルト同一ニシテ唯其目的タル人ヲ異ニシタルノミ其
 物件タル罪證ト爲ルヘキモノニシテ公權ヲ蔑如シ官ノ

處分ヲ妨礙スルノ效ヲ生出シタルモノナレハ之ヲ罰ス
 ル方穩當ナルヘシ或ハ曰ハン殺人毆打ニ付テハ第二百
 九十八條及ヒ第三百四條ニ明文アリ故ニ之ヲ罰スヘシ
 ト雖モ本條ニハ其明文ナシ故ニ之ヲ罰スルヲ得スト曰
 ク否ナ殺人毆打ノ場合ニ於テハ其目的トスル人ノ特定
 スルヲ要スト雖モ罪證隠蔽ニ付ハ之ヲ隠蔽シ其物件ニ
 因リ證明スヘキ罪人ヲ免カレシメント圖リタルヲ
 必要トスルノミ其人ノ誰タルヲ知ルヲ要セス又其人ノ
 甲乙ヲ論セサルナリ故ニ他人ノ罪ヲ免カレシメント
 圖リ罪證ト爲ルヘキ物件ヲ隠蔽シタルトキハ其罪人
 ノ誰タルヲ問ハス之ヲ罰スヘク偶其目的トスル人ヲ誤
 リタルカ爲メ本條ノ罪ヲ免カル、ノ理アラサルナリ然

レトモ茲ニ一ノ例外アリ親屬ノ罪ヲ免カレシメントシメノカ爲
 メ罪證ト爲ルヘキ物件ヲ隱蔽シタルニ其親屬ハ無罪ニ
 シテ他ニ犯人アリタルトキ及ヒ親屬ニ非サル者ノ罪ヲ
 免カレシメントシメノカ爲メ罪證ト爲ルヘキ物件ヲ隱蔽シタル
 ニ其者ハ無罪ニシテ親屬ノ其犯人タルトキハ其罪ヲ論
 スヘカラサルナリ

(三) 或問テ曰ク若シ其免カレシメント圖リタル罪即チ隱
 蔽者ニ於テ豫信シタル罪ト實際ノ罪ト全ク相異ナルト
 キハ如何ト曰ク其隱蔽シタル物件罪證ト爲ルヘキモノ
 ナルトキハ隱蔽者其誤見ヲ申立テ、其罪ヲ免カレハ、チ
 得サルナリ例ヘハ甲屍體ノ傍ニ友人乙ノ所持品アルヲ
 認メ其謀殺罪ヲ免カレシメントシメノカ爲メ之ヲ隱蔽シタリ然

ルニ其罪タル謀殺ニ非スシテ故殺過失殺若クハ毆打死
 ニ致シタルモノナリ此場合ニ於テハ甲ノ當初信シタル
 所ト實際ノ罪ト全ク相異ナレリト雖モ其罪證ト爲ルヘ
 キ物件ヲ隱蔽シタルノ罪ヲ免カレ、チ得ス何トナレハ
 本條ノ罪ハ其實罪アル者ヲ免カレシメントシメノカ爲メ其罪證
 ト爲ルヘキ物件ヲ隱蔽シタルニ因テ成立スルモノニシ
 テ隱蔽者ニ於テ當初信シタル所ト實際ノ罪ト符合スル
 チ必要トセサレハナリ

○佛刑法第三百五十九條 何人ニ限ラズ殺サレタル人
 又ハ毆打創傷ニ因リ死シタル人ノ屍ヲ藏匿隱蔽シ
 タル者ハ六月以上二年以下ノ禁錮及ヒ五十フラン
 シ以上四百フラン以下ノ罰金ニ處セラルヘシ但

其罪ニ加功シタルトキ重キ刑ヲ適用スルノ妨ケト
爲ルコトナカルヘシ刑九、四〇以下、五二以下、治一以下、五九、

第五百五十三條

前二條ノ罪ヲ犯シタル者犯人ノ親屬ニ係ル時ハ其罪

ヲ論セス

一 本條ノ解

二 親屬ナリト信シテ前二條ノ所爲ヲ行ヒタルニ其實親屬ナラサルトキ又ハ親屬ナラサル者ノ爲メニ前二條ノ所爲ヲ行ヒタルニ其實親屬ナルトキハ如何

三 親屬ト共ニ罪ヲ犯シタル者ノ爲メニ前二條ノ所爲ヲ行ヒタルトキハ如何

二〇〇 本條ハ犯人ノ親屬ハ前二條ノ罪ヲ犯スト雖モ之ヲ罰セサル旨ヲ定ム

親屬相隱スハ人情ノ常ナリ深ク咎ムヘキモノニ非ス若シ漫ニ公益ヲ害スルヲ名トシテ親屬相隱ス者モ猶ホ之ヲ寛假セサルトキハ外面或ハ小利益アラント雖モ其實幾倍ノ弊害ヲ惹起スルヤ知ルヘカラス即チ親屬ノ情誼ニ因リ其罪ヲ免カレシメント欲スレハ刑辟ニ觸レ刑辟ニ觸レサランコトヲ欲スレハ親屬ノ情誼ヲ失フニ至リ甚シキハ之カ爲メ親屬ノ情誼全ク地ニ墜テ仇雠敵視互ニ禍難ヲ構ヘ百行ノ美揚ラス六順ノ俗成ラス遂ニ社會ノ聯絡秩序ヲ紊亂スルニ至ルヘシ故ニ罪ヲ犯セシ親屬ヲ藏匿シ若クハ之ヲ隱蔽セシメ又ハ親屬ノ罪ヲ免カレ

シメシカ爲メ其罪證ト爲ルヘキ物件ヲ隠蔽シタルモ法律決テ之ヲ罰セサルナリ此法タル亦夫ノ證人ニ關スル法ト能ク相呼應ス何トナレハ親屬ハ之ヲ證人トセス故ニ縱ヒ被告人ヲ曲庇スルモ法律之ヲ罰セサレハナリ

○或問テ曰ク若シ親屬ナリト信シテ之ヲ藏匿シ若クハ隠避セシメタルニ其者親屬ニ非サリシトキ又ハ親屬ニ非スト信シタル者ノ罪ヲ免カレシメンカ爲メ罪證ト爲ルヘキ物件ヲ隠蔽シタルニ其實罪人ハ親屬ナリシトキハ如何ト曰ク何レノ場合ニ於テモ之ヲ罪トシテ論スルヲ得ス第一ノ場合ニ於テハ總則第七十七條ニ所謂罪ト爲ルヘキ事實ヲ知ラサルモノナリ故ニ之ヲ罰スルヲ得ス又第二ノ場合ニ於テハ恰モ他人ノ所有物ナリト信シ

テ之ヲ竊取シタルニ其物件自己ノ所有ニ屬スル場合ノ如ク其實親屬ナルカ故ニ之ヲ罰スルヲ得サルナリ或ハ曰ハン第二ノ場合ニ於テハ親屬ナルコトヲ知ラスシテ事ヲ行ヒタルモノナレハ之ヲ罰スルモ敢テ其弊ナカルヘシト曰ク實ニ然リ親屬ナルコトヲ知ラサリシ場合ニ於テハ之ヲ罰スル敢テ不可ナシト雖モ法律ニ犯人ノ親屬ニ係ルトキハ其罪ヲ論セスト定メタル以上ハ其實親屬ナルトキハ之ヲ罰スルヲ得サルナリ

○或問テ曰ク若シ親屬ト共ニ罪ヲ犯シタル者ヲ藏匿シ若クハ隠避セシメ又ハ親屬ト他人ト共ニ犯シタル罪ノ證據物件ヲ隠蔽シタル者ハ如何ト曰ク此場合ニ於テハ宜ク區別ヲ設ケテ論セサルヘカラス若シ其藏匿隠避若

シハ隠蔽ノ所爲親屬ノ爲メニ行ヒタルトキハ之ヲ罰セサルモ否ラサルトキハ之ヲ罰セサルヘカラサルナリ例
 ハ親屬ト共ニ獄ヲ越ヘテ逃走シ來レリ因テ此等ノ囚徒ヲ同時ニ隠避セシメタルトキハ之ヲ罰スルヲ得ス何トナレハ其親屬ニ非サル者ヲ隠避セシメタルハ親屬ヲ隠避セシメシテ若シ親屬ノミチ隠避セシムルニ於テハ他ノ共犯人直チニ捕ニ就キ事發露シテ其效ヲ全フスル能ハサレハナリ然レトモ親屬ト共ニ罪ヲ犯シタル者獨リ逃走シ來レリ因テ之ヲ藏匿シタル場合ノ如キハ其目的親屬ヲ藏匿スルニ在ラサレハ之ヲ不問ニ付スヘカラサルナリ又例ヘハ親屬ノ罪ヲ免カレシメシメコトヲ圖リ共犯人ノ犯所ニ遺失シ

タル物件ヲ隠蔽シタル者ハ之ヲ罰スルヲ得スト雖モ共犯人中ニ親屬ノ加ハリアルヲ知ラスシテ他人ノ證據物件ヲ隠蔽シタル場合ニ於テハ之ヲ不問ニ付スヘカラス何トナレハ一ハ親屬ノ罪ヲ免カレシムルヲ以テ主ト爲シ一ハ他人ノ罪ヲ免カレシムルヲ以テ主ト爲セハナリ或曰シ親屬ナルコトヲ知ラスシテ其罪證ト爲ルヘキ物件ヲ隠蔽シタルモ其實罪ヲ犯シタル者ハ親屬ナルトキ之ヲ罰セストセハ親屬ノ共犯人タルコトヲ知ラスシテ其罪證ト爲ルヘキ物件ヲ隠蔽シタルモ若シ其實親屬ノ共犯人タルトキハ之ヲ不問ニ付セサルヘカラサルニ非スヤト曰シ否ナ彼此皮相上其理ヲ同フスルカ如キモ深ク性質ヲ探究スルトキハ其實全ク異ナレリ今左ニ其所

以テ辨セシ

抑親屬ナルコトヲ知ラスシテ其罪證ト爲ルヘキ物件ヲ
隠蔽シタル場合ニ於テハ曩ニ開説セシ如ク本條ノ明文
ニ從ヒ必スシモ之ヲ不問ニ付セサルヘカラス是レ法ニ
犯人ノ親屬ニ係ルトキハ其罪ヲ論セズトアリテ其親屬
ナルコトヲ知テ犯シタルト否トヲ論セサレハナリ然レ
トモ親屬ト共ニ罪ヲ犯シタル者ノ罪證ト爲ルヘキ物件
ヲ隠蔽シタル者ヲ不問ニ付スヘキト否トハ法ニ明文ナ
シ唯道理ニ基キ親屬ノ罪ヲ免カレシメンカ爲メ爲シタ
ル者ハ之ヲ不問ニ付スヘシトイフニ在リ故ニ其親屬ノ
爲メニ爲シタルニ非サルトキハ勿論之ヲ不問ニ付スヘ
カラサルナリ之ヲ要スルニ第一ノ場合ニ於テハ藏匿隱

蔽者ヲ罰セサルヲ以テ正則トシ第二ノ場合ニ於テハ之
ヲ罰スルヲ以テ正則トスレハ彼此全ク其地ヲ異ニスル
モノナリ

○佛刑法第二百四十八條項二 第百五十一條
ニ全文ヲ掲ク

第四節 附加刑ノ執行ヲ遁ル、罪

○本節凡テ三條附加刑ノ執行ヲ遁ル、罪ヲ定ム
前節ニ於テハ主刑ノ執行ヲ遁ル、罪ヲ定メタリ主刑ハ
直接ニ犯人ノ身體ニ科スルモノナリト雖モ附加刑ハ則
チ然ラズ多クハ無形上ノ執行ヲ爲スモノニシテ監視ノ
如キ稍有形上ノ執行ヲ爲スモノト雖モ之ヲ主刑ノ執行
ニ比スルトキハ其差異大ナリ故ニ附加刑ノ執行ヲ遁ル

附加刑ノ執行ヲ遁ル、罪

、罪ノ爲メ特ニ本節ヲ設ケタリ

第一百五十四條

公權ヲ剝奪セラレ又ハ公權ヲ停止セラレタル者私ニ其權ヲ行ヒタル時ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○本條ハ剝奪公權停止公權ノ執行ヲ遁レタル者ノ罪ヲ定ム

剝奪公權トハ畢生間第三十一條ニ記載シタル權利ヲ行フヲ禁スルヲイヒ停止公權トハ特定ノ時間其權利ヲ行フヲ禁スルヲイフ凡ソ主刑ハ有形上之ヲ執行スヘシト雖モ剝奪公權及ヒ停止公權ハ有形上之ヲ執行スルヲ得ス故ニ其執行ヲ遁ル、トハ別ニ有形上ノ執行ヲ遁ル、

ニ非ス唯私ニ剝奪若クハ停止セラレタル權利ヲ行フモノナリ

本條ニ依ルニ私ニ公權ヲ行ヒタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス之ヲ單純ナル囚徒逃走ノ罪ニ比照スルトキハ其刑大ニ重シ彼ノ主刑ノ執行ヲ遁レタル者ニ輕クシテ此ノ附加刑ノ執行ヲ遁レタル者ニ重キハ刑ノ順序ヲ失スルカ如シト雖モ其實決テ然ラス第一身體ノ自由ハ人ノ熱望スル所ナレハ監倉獄舎ニ在ル者其門關ノ開闢ヲ見若クハ看守者ノ間隙ヲ窺テ逃走スルハ大ニ恕スヘキ所アリト雖モ私ニ公權ヲ行フ者ハ此ノ如ク憫憐スヘキノ情アルコトナシ又監獄ニ在ル者ノ逃走ハ之ヲ行フ難ク之ヲ防ク易シト雖

モ剝奪公權停止公權ハ之ニ背ク易ク之ヲ防ク難シ故ニ
彼レニ輕フシテ此レニ重キハ刑ノ順序ヲ失スルモノニ
非スシテ即チ其罪ノ輕重ニ應シテ刑ヲ量定シタルモノ
ナリ

第百五十五條

監視ニ付セラレタル者其規則ニ違背シタル時ハ十五
日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

○本條ハ監視ノ執行ヲ遁レタル者ノ罪ヲ定ム
凡ソ監視ニ付セラレタル者ハ主刑ヲ免シテ單ニ之ニ付
セラレタルト刑期滿限ノ後及ヒ假出獄中之ニ付セラレ
タルトヲ問ハス必ス刑法附則ニ定ムル所ノ監視規則ニ
從ハサルヘカラス然ルニ之ニ背キ酒宴遊興ノ席ニ會シ

若クハ故ナク住居ヲ移轉シタル如キ者ハ之ヲ十五日以
上六月以下ノ重禁錮ニ處スルモノナリ

○佛刑法第四十五條 前條ニ定メタル規則ニ違背シタ
ル場合ニ於テ監視ニ付セラレタル者ハ輕罪裁判所
ニ於テ五年以下ノ禁錮ニ處セラルヘシ刑四〇以下、
千八百五十
一、年十二月八日附ノ
敕書ヲ以テ改正ス

千八百五十一年十二月八日附勅書

第一條 凡テ監視ニ付セラレタル者監視規則ニ背ク

トキハ公安ノ爲メ「カイアンヌ」南亞米利加洲ニ在
又ハ「アルシエリ」亞佛利加洲ニ在ニ在ル懲治ノ屬地
ニ遷徙セラル、コトアルヘシ○其期限ハ五年以上
十年以下ナリトス

第二條

他事ニ渉ル

第三條

第三十七條ニ全文ヲ掲ク

第四條

凡ソ監視ニ付セラレタル者ハ巴里及ヒ其周

圍ノ附屬地ニ住居スルヲ禁ス

第五條

前條ニ記載シタル者ハ行政官署ノ允許ヲ得

タル者ノ外此勅書頒布ノ日ヨリ十日内ニ巴里及ヒ

其周圍ノ附屬地ヲ立去ルヘシ○犯人ノ求メニ因リ

其原住所ノ地又ハ其指示シタル地ニ至ルマテ其通

行スヘキ道路ヲ定ムル路券及ヒ救濟券ヲ下付スヘ

シ

第六條

此勅書第四條第五條ニ定メタル規則ニ背シ

トキハ犯人ハ公安ノ爲メ「カイアンヌ」又ハ「アルシユリ

」ニ在ル懲治ノ屬地ニ遷徙セラレ、コトアルヘシ

第七條

此勅書ニ依リ遷徙セラレタル者ハ懲治場ニ

於テ役ニ服スヘシ○犯人ハ民權政權ヲ剝奪セラレ

ヘシ○犯人ハ軍事裁判所ノ管轄ニ屬シ之ニ軍律ヲ

適用スヘシ然レトモ其懲治場ヲ逃走シタル場合ニ

於テハ其屬地ニ居ルヘキ時間ニ過キサル禁錮ニ處

セラレヘシ○犯人禁錮中ハ其長官及ヒ文武ノ監督

者ニ對スル軍紀ヲ遵奉スヘシ

第八條

懲治ノ屬地ノ構成ハ行政規則ヲ以テ之ヲ定

ム

第一百五十六條

前二條ノ罪ハ其刑期限内再ヒ犯シタル時ニ非サレハ

再犯ヲ以テ論スルヲ得ス〔刑〕九一以下、
一四九

○本條ハ第四百十三條ト全ク其主趣ヲ同フス故ニ茲ニ
之ヲ釋義ヲ下サス

第五節 私ニ軍用ノ銃礮彈藥ヲ製造シ及ヒ所

有スル罪

○本節凡テ五條私ニ銃礮彈藥ヲ製造シ及ヒ所有スル罪
ヲ定ム

軍用ノ銃礮彈藥ハ陸海軍ノ用ニ供スヘキモノニシテ一
般人民ノ使用スヘキモノニ非ス此等ノ物品タル多クハ
内亂暴動等ノ用ニ資スルモノニシテ然ラサルモ亦破裂
爆發等ノ危險大ナルモノナリ故ニ官ノ命令若クハ許可

ヲ受ケスシテ人民私ニ之ヲ製造若クハ所有スル者ハ其
公益ヲ擾亂スルノ恐アルカ故ニ豫防處分トシテ之ヲ罰
スヘシト定メタリ

本節ノ罪ハ明治五年第二百八十二號布告及ヒ明治七年
第三百三十二號布告ト大ニ牽連ス故ニ本節ニ刑名アルモ
ノハ本節ニ依リ其正條ナキ者ハ右布告ニ依リ處斷スヘ
キナリ

第一百五十七條

官命ヲ受ケス又ハ官許ヲ得スシテ陸海軍ノ用ニ供ス
ル銃礮彈藥其他破裂質ノ物品ヲ製造シタル者ハ二月
以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下
ノ罰金ヲ附加ス其之ヲ輸入シタル者亦同シ〔刑〕二五
一以下

私ニ軍用ノ銃礮彈藥ヲ製造シ及ヒ所有スル罪 第一百五十七條

前項ノ物品ヲ私ニ販賣シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

一 本條ノ主旨

二 第一項ノ解

三 第二項ノ解

〔一〕〇本條ハ軍用ノ銃礮彈藥其他破裂質ノ物品ヲ私ニ製造輸入若クハ販賣シタル者ノ罪ヲ定ム

〔二〕〇第一項 本項ハ銃礮彈藥等ヲ製造輸入シタル者ノ罪ヲ定ム

軍用ノ銃礮彈藥其他破裂質ノ物品ハ其性質激烈ニシテ人民ノ之ヲ使用シテ頗ル危險ノ憂アルト内亂暴動等ノ用ニ資スルノ恐レアルトニ因リ官之ヲ製造ス然レトモ

或ハ人民ニ其製造ヲ命シ若クハ之ヲ許可スルコトナキニ非ス故ニ官ノ命令ヲ受ケ若クハ其許可ヲ得テ之ヲ製造スル者ハ格別私ニ之ヲ製造スル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮及ヒ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處スヘシト定メタリ

私ニ銃礮彈藥ノ類ヲ外國ヨリ輸入シタル者亦同シ製造ト輸入トハ其所爲異ナルモ其害一ナリ故ニ彼此其刑ヲ同フシタルハ能ク其當ヲ得タルモノナリ

本條ノ罪ハ一ノ豫防處分ニ屬ス故ニ其目的ノ何タルヲ問ハス然レトモ其目的ノ如何ニ因リ別ニ刑名アルモノハ各本條ニ從ヒ之ヲ處斷スヘキナリ例ヘハ内亂ヲ起スノ目的ヲ以テ銃礮彈藥等ヲ製造シ又ハ之ヲ輸入シタル

者ハ第二百二十五條ニ依テ之ヲ罰シ本條ニ問ハサルノ類
是レナリ

〔三〕〇第二項 本項ハ銃礮彈藥等ヲ私ニ販賣シタル者ノ罪
ヲ定ム

銃礮彈藥等ハ專ラ軍用ニ屬ス人民ノ使用スヘキモノニ
非ス既ニ人民ノ使用スヘキモノニ非ス故ニ亦私ニ之ヲ
販賣スルヲ許サス蓋シ兇徒ノ賊謀ヲ助資シ或ハ之ヲ容
易ナラシムルノ恐虞大ナレハナリ故ニ本項之ヲ罪トシ
テ罰セリ然レトモ之ヲ製造者若クハ輸入者ニ比スルニ
其害頗ル少ナキヲ以テ其刑亦其半ヲ減シ僅ニ一月以上
一年以下十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處スヘシト定メタ

〇佛刑法第三百十四條 凡ソ「スナレ」小名劍トロンブロン

小銃又ハ其種類ノ何タルヲ問ハス法律又ハ行政規
則ニ依リ禁制シタル兵器ヲ製造若クハ販賣シタル
者ハ六日以上四月以下ノ禁錮ニ處セラルヘシ

右ノ兵器ヲ携帶スル者ハ十六「フランク」以上二百「フ
ランク」以下ノ罰金ニ處セラルヘシ

何レノ場合ニ於テモ兵器ハ之ヲ沒收スヘシ〔刑〕九〇一
以下七五九以下三一九

若シ重罪ノ共犯タル場合ニ於テハ重キ刑ヲ適用ス
ルノ妨礙ト爲ルコトナカルヘシ〔刑〕五九以下

同第三百十五條 前數條ニ於テ定メタル懲治刑ノ外
ニ裁判所ニ於テハ二年以上十年以下ノ監視ニ付ス

ルノ言渡ヲ爲スコトヲ得ヘシ三一四三四以下

二九〇

第百五十八條

前條ノ罪ヲ犯スト雖モ職工又ハ雇人ニシテ止タ正犯ノ使令ニ供シタル者ハ各本刑ニ照シ二等ヲ減ス

○本條ハ正犯ノ使令ニ供シタル職工及ヒ雇人ニ付テノ特例ヲ定ム

總則ニ依ルニ二人以上現ニ罪ヲ犯シタル者ハ正犯ト爲シ各自ニ其刑ヲ科スルモノナリ然レトモ往々之カ例外ヲ設クルコトアリ即チ其加功ノ度異ニシテ罪惡ノ差大ナルトキハ法律各正犯ニ對スルノ刑ヲ定ム本條ノ如キ蓋シ是レナリ

軍用ノ銃礮彈藥等ヲ製造若クハ輸入シ又ハ之ヲ販賣スル者ノ職工又ハ雇人ニシテ止タ雇主等ノ使令ニ供シ事ヲ行ヒタル者ハ之ヲ其使令ヲ爲シタルモノニ比スレハ其罪惡ノ輕重大小全ク其地ヲ異ニスルモノナリ且特立シテ其事ヲ行フモノニ非サレハ嚴ニ之ヲ罰スルノ要ナク其使令ヲ爲シタル者ヲ嚴罰スルヤ既ニ以テ充分ナリトス故ニ本條特ニ本刑ヨリ二等ヲ減スヘシト定メタリ或問テ曰ク職工又ハ雇人ニシテ止タ正犯ノ使令ニ供シ豫備ノ所爲ヲ以テ之ヲ幫助シタル者例ヘハ正犯ノ使令ヲ受ケ銃礮彈藥ヲ製造スルノ用ニ供スヘキ器具等ヲ購求シタル者ノ類ハ本刑ヨリ何等ヲ減スヘキ乎ト曰ク本條ニハ正從犯ノ區別ナシ故ニ稍不權衡ノ嫌ナキニ非スト雖モ其正犯タルト從犯タルトヲ問ハス唯本刑ニ二等

第二百五十九條

前二條ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス〔刑一一一以下、

○本條ハ軍用ノ銃礮彈藥等ヲ製造輸入若クハ販賣スルノ罪ハ未遂犯ヲ罰スル旨ヲ定ム
前二條ノ罪ハ一ノ豫防處分ニ屬スルモノニシテ世安ヲ害スル殊ニ大ナルモノナリ故ニ未タ之ヲ遂ケスト雖モ既ニ其事ニ着手シタル者ハ必ス之ヲ罰シテ以テ世安ヲ維持セサルヘカラス是レ本條ノ設ケアル所以ナリ

第六十條

第二百五十七條ニ記載シタル物品ヲ私ニ所有シタル者

ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

○本條ハ第二百五十七條ニ記載シタル物品ヲ私有シタル者ノ罪ヲ定ム
軍用ノ銃礮彈藥等ハ其質危險ナルノミナラス往々犯罪ノ用ニ供スルモノナレハ何人ニ限ラス私ニ之ヲ所有スル者ハ本條ニ依リ之ヲ罰ス然レトモ此罪タル製造輸入販賣ノ如ク其害ノ波及スル所敢テ張大ナラス且毫モ所有者ノ心術ヲ問ハス唯所有即チ外形ノ所爲ヲ罰スルニ止マルモノナレハ僅ニ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ以テセリ

或問テ曰ク本條ニ所謂所有トハ眞所有ノミチイフ乎ト
曰ク高木氏刑法義解ノ說ク所口ヲ聞クニ私ニ所有シタルト

ハ自己ノ眞所有ノミナラス受託抵當若クハ賃借等ニ由テ所持スル者皆是ナリト其レ然リ而シテ今此点ニ付テ一團ノ疑塊ヲ抱ケリ即チ眞所有者ニ非サル者此等ノ物品ヲ所持シタルトキハ所持人ト所有者ト並ビテ之ヲ罰スヘキ乎將タ所持人ノミニ止マル乎ノ問是レナリ「ホワソナド」先生刑註法草曰ク但此輕罪ハ現行犯タル時ノ外之ヲ罰セサルコトヲ注意スヘシ犯者現ニ武器ヲ所持スル者タルコトヲ要スルナリ故ニ其者ノ手ニ於テ此物件ヲ見タル旨ヲ口實トシテ證據ヲ立ル者アリト雖モ之カ爲メ其罪ヲ論スルハ本法ノ許サ、ル所ナリト此說ヤ佛文刑法草案ニ所謂「トル」トゾボセソール現ニ所持トノ言ニ基由シタルモノナレハ今日之ヲ以テ法律ノ精神ナリトスルヲ得ス加之本條所有シタル者云々ハ現ニ所持スル者ニ限ラサルノ旨意ヲ明示スルモノナレハ決テ之ヲ現ニ所持スル者ニ限レリト說クヲ得サルナリ然レトモ現ニ所持セサルモ一旦之ヲ所持シタルノ證左アルトキハ仍ホ之ヲ罰スヘシト爲スハ豫防ノ爲メ設ケタル本條ノ精神ニ少ク背馳セサルヤノ嫌アリ故ニ余ハ寧ロ本條所有シタル者ヲ改メテ所持スル者トセラレシコトヲ希望ス

○佛刑法第三百十四條項二 第二百五十七條ニ全文ヲ掲ク

第百六十一條

第百五十七條ニ記載シタル物品ノ製造ニ供シタル器械ニシテ單ニ其用ニ供ス可キ者ハ何人ノ所有ヲ問ハ

ス之ヲ沒收ス〔刑〕四三、四四、

一 本條ノ解

二 軍用ノ銃礮彈藥其他破裂質ノ物品ハ何ニ依テ之ヲ沒收スヘキ乎

〔一〕〇本條ハ製造器械ノ沒收例ヲ定ム

製造器械ハ犯罪ノ用ニ供スルモノナレハ第四十條ニ依リ之ヲ沒收スヘシト雖モ犯罪ノ用ニ供シタル物件ハ犯人ノ所有ニ屬スルニ非サレハ之ヲ沒收スルヲ得ス然ルニ單ニ軍用ノ銃礮彈藥等ヲ製造スルノ用ニ供スヘキ器械ハ之ヲ人民ノ所有ニ屬セシムルモ其用ナク寧ろ害アルニ近シ故ニ此ノ如キ器械ニ限り何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒收シテ以テ再ヒ其器械ヲ使用スル者ナカラシム

是レ本條ノ設ケアル所以ナリ

〔二〕〇或問テ曰ク草案第百九十五條ニハ銃礮彈藥ノ類ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒收スルノ明文アリキ然ルニ之ヲ削除シタルハ是レ此等ノ物品ハ之ヲ沒收セサルノ意乎ト曰ク銃礮彈藥等ハ犯罪ニ因テ得タル物件ニ非ス又犯罪ノ用ニ供シタル物件ニ非ス一ノ罪體ナリ故ニ法ニ明文ナキトキハ其犯人ノ手裡ニ在ルモ仍ホ之ヲ沒收スヘカラサルカ如シ然レトモ銃礮彈藥ノ類ハ之ヲ製造輸入販賣スルヲ禁スルノミナラズ亦之ヲ所持スルヲ禁スルモノニシテ乃チ一ノ禁制物ナリ故ニ第四十三條第一ニ依リ何人ノ所有ヲ問ハス必ス之ヲ沒收スルモノニシテ之カ爲メ特ニ明文ヲ要セサルナリ

○佛刑法第三百十四條項三

第二百五十七條

二九八

第六節 往來通信ヲ妨害スル罪

○本節凡テ九條往來通信ヲ妨害スル罪ヲ定ム
往來通信ハ一國經濟ノ大要ニシテ社會進長ノ基本ナリ
故ニ開明國ニ於テハ專ラ之ヲ保護シ以テ世運ノ闡達ヲ
助ク然ルニ之ヲ妨害スル者ハ即テ害ヲ公益ニ加フルモ
ノニシテ宜ク罰スルニ嚴刑ヲ以テモサルヘカラス是レ
特ニ本節ノ設ケアル所以ナリ

第六十二條

道路橋梁河溝港埠ヲ損壞シテ往來ヲ妨害シタル者ハ
二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以

下ノ罰金ヲ附加ス

○本條ハ道路橋梁河溝港埠ヲ損壞シテ往來ヲ妨害シタ
ル者ノ罪ヲ定ム

道路橋梁河溝港埠ハ人畜車駕船舶ノ往來ニ資スルモノ
ニシテ運輸交通ノ便ヲ與フルモノナリ運輸交通ハ一國
ノ般富隆盛ヲ増進スルノ淵源ナリ故ニ之ヲ損壞シテ往
來ヲ妨害シタル者ハ必スシモ之ヲ罰セサルヘカラス
本條ノ罪ハ損壞ト往來妨害トニ成ル故ニ道路橋梁等ヲ
損壞シタルモ往來ヲ妨害セサルトキ又ハ往來ヲ妨害シ
タルモ道路橋梁等ヲ損壞セサルトキハ本條ノ正面ニ當
ラサルナリ例ハ道路ニ些々タル窪穴ヲ穿テタル者ノ
如キ之ヲ道路ヲ損壞シタル者トイフヘキモ其往來ヲ妨

往來通信ヲ妨害スル罪 第六十二條

二九九

害スルニ足ラサルトキハ之ヲ罰セス又手足ヲ以テ人ノ往來ヲ妨害シタル者ノ如キ之ヲ往來ヲ妨害シタリトイフヘキモ其道路等ヲ損壞シタルニ非サルカ故ニ本條ニ依テ處斷スルヲ得サルナリ

第六十三條

偽計又ハ威力ヲ以テ郵便ヲ妨害シ若クハ之ヲ阻止シタル者ハ亦前條ニ同シ

○本條ハ郵便ヲ妨害シタル者ノ罪ヲ定ム

郵便事務ノ緊要一日モ欠クヘカラサルハ世人ノ既ニ知ル所ナリ故ニ郵便ハ法律特ニ之ヲ保護シテ以テ世ノ通信ヲ便易ナラシメサルヘカラス故ニ道路橋梁等ヲ損壞シテ郵便ヲ妨害シ若クハ阻止シタル者ハ勿論縱ヒ之ヲ

損壞セスト雖モ偽計若クハ威力ヲ以テ郵便ヲ妨害シ若クハ之ヲ阻止シタル者ハ前條ニ同ク二月以上二年以下ノ重禁錮二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處スルモノナリ
偽計トハ例ヘハ前路絶墜通スヘカラスト偽リ郵便脚夫ヲ欺キ迂路ヲ取ラシムルノ類ノ如ク虛妄ノ言ヲ構ヘテ郵便脚夫ヲ欺クチイヒ威力トハ郵便脚夫ヲ毆打シテ其歩行ヲ妨ケ若クハ之ヲ脅迫シテ便路ヲ進ムヲ得サラシムルノ類ノ如ク郵便脚夫ニ暴行脅迫ヲ爲スチイフ此ノ如ク郵便脚夫其他郵便ニ關スル人ノ往來ヲ妨害スルノ罪ヲ以テ公益ニ關スル罪ト爲シタルハ是レ直接ニ害ヲ被ル者ハ一個ノ人ナルモ郵便ヲ妨害阻止セラレタルカ爲メニ間接ニ害ヲ被フル者ハ社會公衆ナルカ故ナリ

第百六十四條

電信ノ器械柱木ヲ損壞シ又ハ條線ヲ切斷シテ電氣ヲ不通ニ致シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
若シ器械柱木條線ヲ損壞シテ電信ノ妨害ヲ爲スト雖モ不通ニ至ラサル時ハ一等ヲ減ス

一 本條ノ解

二 本條ヲ改正スヘキノ説

(一)〇本條ハ電信ヲ妨害シタル者ノ罪ヲ定ム

第一項ハ電信ノ器械柱木ヲ損壞シ又ハ條線ヲ切斷シテ電氣ヲ不通ニ致シタル者ノ罪ヲ定ム

電信ハ郵便ト同ク社會交通上寸滯モ其用ヲ闕クヘカラ

サルモノニシテ其功亦誠ニ大ナリ殊ニ公私緊要急劇ノ用ニ供スルカ故ニ最モ之カ迅速ヲ貴ミ最モ之カ安全ヲ要ス而シテ之ヲ妨害スルノ所爲タル或ハ電信ノ器械柱木ヲ損壞シ或ハ條線ヲ切斷スル等ニ在レハ郵便ヲ妨害シタル者ヨリモ一層嚴ニ之ヲ罰セサルヘカラス是レ本項ニ三月以上三年以下ノ重禁錮五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處スヘシト定メタル所以ナリ

第二項ハ器械柱木條線ヲ損壞シテ電信ノ妨害ヲ爲スト雖モ不通ニ至ラサルトキノ罪ヲ定ム

本條ノ罪ハ電信ヲシテ一時不通ニ致シタルカ故ニ重シ故ニ若シ器械柱木條線ヲ損壞シ電信ヲ妨害スルト雖モ其不通ニ至ラサルトキハ本刑ニ一等ヲ減スヘシト定メ

タリ
本項ニハ單ニ器械柱木線條ヲ損壞云々トアリテ前項ノ如ク線條切斷ノ語ヲ用ヒサルモノハ是レ線條ヲ切斷スルトキハ必スシモ電氣ヲ不通ニ致スカ故ナリ

二〇〇本條ハ二三ノ瑕瑾アルカ如シ今左ニ之ヲ辨示シ以テ如何ニ之ヲ改正スヘキ乎ヲ論セシ

第一 本條ノ電氣ヲ不通ニ致シタルト否トノ區別ハ實行上大困難ヲ生スルコト 此点ヲ論スルニ方テハ先ツ電氣ノ通不通云々ハ其精神唯結果ニ在ル乎將タ目的ニ存スル乎ヲ探究セサルヘカラス高木氏刑法曰ク此條第二項ニ所謂電信ヲ妨害シテ未ダ不通ニ至ラサルモノト雖モ其犯者ノ目的或ハ之ヲ不通ニ致サントスルニ在ル

アル可シ若シ夫レ之ヲ不通ニ致スノ目的ヲ以テ此所爲アリ而シテ其不通ニ至ラサル時ノ如キハ其所謂未遂犯罪ニシテ假令此項アラサルモ下第七十條ニ依リ處斷シ得可キ者ノ如シ然ルヲ此條別ニ此一項ヲ加フル者ハ何ソヤ寔ニ電信ノ器械柱木線條ヲ損壞スル者ハ其目的之ヲ不通ニ致スニ在ルヲ或ハ其多ニ居ル可シ然レモ亦其不通ニ致スヲ以テ目的トセス唯之ヲ損壞シテ多少ノ妨害ヲナサント欲スル者無シトセス故ニ此條其目的ノ不通ニ致スニ在ルト否トヲ分タス是ヲ以テ若シ之ヲ未遂犯罪ノ例ニ委ヌル時ハ此條第二項ニ載スル所ノ所爲ハ即チ首項ノ未遂犯罪タルヘシト雖モ其器械柱木線條ヲ損壞シテ電信ヲ妨害セントシタル者ニ於テハ既ニ

之ヲ罪スルヲ得ス而カモ法律ハ之ヲ罰セシムルヲ欲スルナリ故ニ第二項ノ所爲ヲ以テ一箇既遂ノ罪ト爲シ而シテ尙ホ此所爲ノ未遂犯ヲ罰スルヲ首項ノ罪ト同ク第百七十條ニ依リ之ヲ處斷スルヲ得セシムルナリト因テ之ヲ概括スルニ氏ハ電氣ノ通不通ハ犯人ノ目的ヲ問フモノナリトイフニ過キス余ノ腦漿ニ感スル所ハ之ニ異ナリ電氣ノ通不通ハ蓋シ唯其結果ヲ示シタルノ試ミニ見ヨ犯人ノ目的電氣ヲ不通ニ致スニ在ラスシテ唯多少之カ妨害ヲ爲スニ在ルモ若シ之カ爲メ電氣ノ不通ニ至リタル如キコトアラハ將タ何條ニ從テ之ヲ罰セシム乎必スシモ本條第一項ニ依リ處斷セサルヘカラス若シ然ラスシテ犯人ノ目的如何ヲ問フヘシトセハ其目的不

通ニ致スニ在ラサルモ其結果不通ニ至リタルトキハ如何之ヲ處分スヘキ乎其適條ナキニ至ルヘシ故ニ余ハ敢テ本條ニ所謂通不通ハ唯其結果ヲ示シタルモノトシ犯人電氣ヲ妨害セントスルノ故意アリテ本條ノ罪ヲ犯シタルトキハ其目的電氣ヲ不通ニ致スニ在ルト否トヲ問ハス之ヲ罰スヘシト斷言スルニ躊躇セサルナリ夫レ然リ而シテ其結果如何ニ因リ刑ノ輕重ヲ區別スルノ法ハ實行上誠ニ大困難ヲ生出スヘシ何トナレハ未遂犯ノ場合ニ於テハ其結果電氣ノ不通ニ至ルト否トヲ豫知スルヲ得サレハ本條第一項ノ未遂犯トセシムルヲ將タ第二項ノ未遂犯トセシムル乎到底之ヲ識斷スルヲ得サレハナリ故ニ佛文刑法草案ノ如ク電氣ノ柱木ヲ毀壞拔倒シ又ハ電氣

局ノ器械ヲ損壞シタル者ヲ重ト爲シ電線ヲ切斷シ其他
通信ヲ妨害シタル者ヲ輕ト爲ス平然ラサレハ本條第二
項ヲ削除セサルヘカラサルヘシ

第二 本條ハ其包含スル所狹隘ナルコト 草案ニハ其
他通信ヲ妨害シタル者トアリテ其區域極メテ廣シ故ニ
器械柱木條線ヲ損壞スルニ非スシテ條線ニ懸クルニ鐵
線ヲ以テシ其一端ヲ地中ニ埋メ以テ電氣ヲ導キ通信ヲ
妨害シタル者ノ如キ亦之ヲ罰スルヲ得タリシト雖モ本
條ニハ此語ナキヲ以テ其包含スル所頗ル狹隘ニ陥リ縱
ヒ電信ヲ妨害シタルモ器械柱木條線ヲ損壞シタルニ非
サル者ハ之ヲ罰スルヲ得サルヘシ

第三 本條ハ電信ノ配達ヲ妨害シタル者ノ罪ヲ定メサ
ルコト 電信ヲ妨害スルノ罪ヲ定ムルモ其配達ヲ妨害
スルノ罪ヲ定メサルトキハ郵便配達ヲ妨害シタル者ヲ
罰シテ電信配達ヲ妨害シタル者ヲ罰セサルニ至リ頗ル
權衡ヲ失スヘシ

右ニ開説スル如ク本條ハ未ダ以テ完璧ト爲スニ足ラヌ
宜ク之ヲ左ノ如ク改正セラレノコトヲ希望ス
電信ノ器械柱木ヲ損壞シ又ハ條線ヲ切斷シ其他通信
ノ妨害ヲ爲シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ
處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ之カ爲
メニ電氣不通ニ至リタルトキハ一等ヲ加フ
偽計威力其他ノ方法ヲ以テ電信配達ヲ妨害シタル者
ハ亦前項ニ同シ

右ノ如ク改正スルトキハ電信ヲ妨害スルヲ以テ罪トシ
 而シテ電氣不通ニ至リタルヲ以テ加重ノ模様ト爲スカ
 故ニ實際上困難ヲ生スルノ憂ナカルヘシ又電信配達ヲ
 妨害シタル者ヲ罰スルニ郵便ヲ妨害シタル者ヨリモ重
 キ刑ヲ以テスルヲ非難スル者アリト雖モ電信ノ配達ハ
 一瞬時ト雖モ仍ホ之ヲ忽セニスヘカラズ其速疾徐ハ
 利害得失ニ至大ニ關係ヲ有スルモノナレハ彼此刑ニ輕
 重アルハ固ヨリ當然ノコトナルヘシ
 本條ニ定メタルモノ、外郵便規則ニ觸ル、モノアリ此
 等ハ同罰則ニ依テ處斷スヘキナリ

第百六十五條

瀛車ノ往來ヲ妨害スル爲メ鐵道及ヒ其標識ヲ損壞シ

其他危儉ナル障礙ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス

○本條ハ瀛車ノ往來ヲ妨害スル爲メ危險ナル障礙ヲ爲
 シタル者ノ罪ヲ定ム

瀛車ハ線路ヲ走り且點燈標識ニ因テ進止緩急ヲ量度ス
 ルモノナリ故ニ線路ヲ損壞スルトキハ瀛車之ヲ超脱シ
 テ顛倒覆跌ノ恐レアリ標識ヲ損壞スルトキハ衝突撞擊
 ノ憂アリ此等ノ禍難ハ其危害實ニ測ルヘカミササルモノ
 アリ故ニ此ノ如キ危險ナル障礙ヲ爲ス者ハ之ヲ重懲役
 ニ處スヘシト定メタリ

瀛車ノ往來ヲ妨害スルニハ線路及ヒ其標識ヲ損壞スル
 ノミニ限ラス或ハ線路ニ障礙物ヲ投シ或ハ詐偽ノ標識
 ヲ點示スルノ類皆ナ以テ之ヲ妨害スルニ足ル故ニ本條

ニ其他危険ナル障礙ヲ爲シタル者ノ一語ヲ加ヘタリ
本條ニ定メタルモノ、外鐵道規則ニ觸ル、モノアリ此
等ハ同罰則ニ依テ處斷スヘキナリ

第六十六條

船舶ノ往來ヲ妨害スル爲メ燈臺浮標其他航海ノ安寧
ヲ保護スル標識ヲ損壞シ又ハ詐僞ノ標識ヲ點示シタ
ル者ハ亦前條ニ同シ

○本條ハ船舶ノ往來ヲ妨害シタル者ノ罪ヲ定ム
海路ノ緊要ナル陸路ニ異ナラス且陸地ノ往來ヲ妨害ス
ルト異ナリテ覆沒破船ノ危険アリ敢テ漁車ノ顛覆衝突
等ノ危害ニ讓ラス故ニ本條ト前條トハ全ク其刑ヲ同フ
セリ

海路ヲ妨害スルト陸路ヲ妨害スルトハ其所爲自ラ異ナ
レリ陸路ハ之ヲ損壞シ其他障礙ヲ設ケテ直接ニ往來ヲ
妨害スルヲ得ルモ海路ノ如キハ人障礙ヲ設ケテ船舶ノ
往來ヲ妨害スルヲ得ス專ラ航海保護ノ爲メ建設セル所
ノ燈臺浮標其他ノ標識ヲ損壞シ又ハ航海ノ線路指針ヲ
誤マラシムルニ至ルヘキ詐僞ノ標識ヲ點示スルヲ以テ
海路ノ往來ヲ妨害スルノ所爲ト爲セリ
○或問テ曰ク本條ニ船舶ノ往來ヲ妨害シタルノ罪ヲ定
メ第六十二條ニ河溝ヲ損壞シテ往來ヲ妨害シタルノ
罪ヲ定ム故ニ本條ハ海路ノ往來ヲ妨害シタルモノニ限
レルモノナル乎ト曰ク本條ニハ廣ク船舶ノ往來云々ト
アレハ海上ヲ通行スルモノト河溝ヲ通行スルモノトナ

問ラヘカラス故ニ海ト河溝トヲ論ビテ燈臺浮標其他航行ノ安全ヲ保護スルカ爲メ設ケタル標識ヲ損壞シ若クハ詐僞ノ標識ヲ點示シタル者ハ皆テ本條ニ依テ處斷スヘク河溝ヲ損壞シテ船舶ノ往來ヲ妨害シタル者ハ第百六十二條ニ依テ處斷スヘキナリ此ノ如ク河溝ヲ損壞シテ船舶ノ往來ヲ妨害シタル者ト燈臺浮標等ヲ損壞シテ其往來ヲ妨害シタル者ト其刑ヲ異ニスルモノハ是レ燈臺浮標等ハ航行ノ危險ナル場所ニ於テ其安全ヲ保護セシカ爲メ設ケタルモノナレハ之ヲ損壞シ若クハ詐僞ノ標識ヲ點示スルトキハ船舶ノ破難覆没ヲ來タスノ憂アリ且其事タル行ヒ易キモノナレハ重ク之ヲ罰セサルヘカラスト雖モ河溝ヲ損壞シテ船舶ノ往來ヲ妨害スルハ其事タル爲シ難ク且唯船舶ノ往來ヲ妨害スルニ止マリ破難覆没等ノ憂殆ント之レナシ故ニ輕ク之ヲ罰シタルナリ

第百六十七條

前數條ニ記載シタル罪其事務ニ關スル官吏及ヒ雇人職工自ラ犯シタル時ハ各本刑ニ照シ一等ヲ加フ

○本條ハ第百六十二條乃至第百六十六條ニ記載シタル罪ノ加重スヘキ模様ヲ定ム

道路橋梁郵便電信鐵道燈臺浮標等ニハ必ス之ヲ管掌スルノ官吏アリ又雇人職工アリ是等ノ者ハ各自其事ニ關スル業務ヲ執リ其保護ニ任スルモノナリ然ルニ其任ニ背キ却テ危害ヲ加フル如キアラハ其罪惡常人ト同一視

スヘカヲサルノミナラス之ヲ行フニ易ク之ヲ防クニ難
キカ故ニ一等ヲ加重シテ之ヲ嚴罰スヘシト定メタリ

第百六十八條

第百六十二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ殺傷シタル者ハ毆
打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス〔刑二九九
以下〕

○前數條ハ往來通信ヲ妨害スル罪ノ適條ヲ掲ケ本條及
ヒ次條ハ往來ヲ妨害シタル罪ニ因リ生スル結果ニ關ス
ル法ヲ定ム

道路橋梁河溝港埠ヲ損壞シテ往來ヲ妨害シタルトキハ
往々之カ爲メ人ヲ殺傷スルコトアリ例ヘハ往來ヲ妨害
セシカ爲メ橋梁ヲ損壞シタル然ルニ人其損壞ヲ知ラス
シテ橋梁ヲ通行シ河溝ニ失墜シテ死傷シタル場合ノ類

是レナリ今此場合ニ於テハ之ヲ過失殺傷トシテ平將タ
故殺傷ヲ以テ論セン乎犯人ハ往來ヲ妨害スルノ意アル
モ人ヲ殺傷スルノ意ナシ故ニ故殺傷ヲ以テ論スルヲ得
ス然ラハ之ヲ過失殺トセン乎其性質稍過失殺ニ相類ス
ト雖モ其道路橋梁等ヲ損壞シタルハ故意ニ出テタルモ
ノニシテ而シテ道路橋梁等ヲ損壞スルヤ往來人ノ之カ
爲メ死傷スルコトアルヘキモノナレハ過失殺ヲ以テ之
ヲ論スルハ少シシ妥當ナラス故ニ本條ヲ設ケ毆打創傷
ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷スヘシト定メタリ余思
フニ此ノ如ク毆打創傷ノ各本條ニ照シテ處斷スルノ法
タル能ク其當ヲ得タリト信ス何トナレハ毆打創傷ノ罪
ハ故意ニ人ヲ毆打シタルヲ要スルノミニシテ其結果如

何ヲ顧ミ刑ヲ量定スルモノナレハ意アリテ道路橋梁等
ヲ損壞シ之カ爲メ人ノ死傷ニ至リタル場合ヲ以テ毆打
創傷ニ準スルハ彼此ノ性質相類似スル所アレハナリ

第百六十九條

第百六十五條第百六十六條ノ罪ヲ犯シ因テ瀛車ヲ顛
覆シ又ハ船舶ヲ覆没シタル時ハ無期徒刑ニ處シ人ヲ
死ニ致シタル時ハ死刑ニ處ス^{〔刑〕四一五、四一六}

○本條ハ第百六十五條第百六十六條ノ罪ニ因リ生スル
結果ニ關スル法ヲ定ム

鐵道及ヒ其標識ヲ損壞スルカ或ハ燈臺浮標其他航海ノ
安全ヲ保護スル標識ヲ損壞スルカ如キハ獨リ瀛車船舶
ノ顛覆衝突等種々ノ惡結果ヲ惹起スルノミナラス往々
之カ爲メ人ノ身體ヲ傷リ生命ヲ害シ且巨額ノ財産物貨
ヲ損滅スルコトアリ故ニ此等ノ所爲ヲ行ヒ因テ瀛車ヲ
顛覆シ若クハ船舶ヲ覆没シタルトキハ無期徒刑ニ處シ
人ヲ死ニ至シタルトキハ死刑ニ處スヘシト定メタリ

第百七十條

此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル
者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス^{〔刑〕一一一以下}

○本節ノ罪ハ公益ヲ害スル最モ大ナリ故ニ輕罪ノ未遂
犯ト雖モ仍ホ總則ニ依リ之ヲ罰スヘシト定メタリ

第七節 人ノ住所ヲ侵ス罪

○本節凡テ三條人ノ住所ヲ侵ス罪ヲ定ム

第百六十九條 第百七十條 人ノ住所ヲ侵ス罪

人ノ住所ハ恰モ一ノ城郭ノコトシ他人故ナク之ヲ侵ス
ヘカラス此原則タル海外諸國ノ業ニ既ニ認メタル所ナ
リ

本節ハ單ニ家宅不侵ノ原則ニ制裁ヲ付スルカ爲メナラ
ズ前節ト同ク亦是レ一ノ豫防處分ナリ既ニ侵スヘカラ
サルノ住所ヲ侵スハ必ズ善事ニ非ズ多クハ殺人盜偷猥
褻姦淫等ノ思圖ヲ有スルモノ即チ豫備ノ所爲ナリ故ニ
此所爲ヲ以テ別罪トシ之ヲ罰スヘシト定メタリ

第一百七十一條

晝間故ナク人ノ住居シタル邸宅又ハ人ノ看守シタル
建造物ニ入りタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮
ニ處ス

若シ左ニ記載シタル所爲アル時ハ一等ヲ加フ

一 門戸牆壁ヲ踰越損壞シ又ハ鎖鑰ヲ開キテ入りタ
ル時

二 兇器其他犯罪ノ用ニ供ス可キ物品ヲ携帯シテ入
リタル時

三 暴行ヲ爲シテ入りタル時

四 二人以上ニテ入りタル時

一 本條ノ主旨

二 第一項ノ解

三 第二項ノ解○一箇毎ニ加重セサルノ法ハ果テ其
當ヲ得タル乎

四 兇器ノ解

(一)〇本條ハ晝間故ナク人ノ住居シタル邸宅又ハ人ノ看守シタル建造物ニ入りタル者ノ罪及ヒ其加重ノ模様ヲ定ム

(二)〇第一項 本項ハ晝間故ナク人ノ住居シタル邸宅及ヒ人ノ看守シタル建造物ニ入りタル者ノ罪ヲ定ム
人ノ住居シタル邸宅トハ平常人ノ寢食起臥スル所ノ家屋及ヒ其構内チイフ人ノ看守シタル建造物トハ神社佛閣官署學校其他公私各種ノ建造物ニシテ人ノ看守スルモノチイフ無住ノ邸宅不守ノ建造物ハ本條ノ正面ニ當ラザルナリ

故ナク人ノ住居シタル邸宅若クハ人ノ看守シタル建造物ニ入ル者ハ其目的善事ヲ爲スニ在ラス多クハ殺人毆打盜倫等ノ豫備タルモノナリ故ニ本項之ヲ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處スヘシト定メタリ

(三)〇第二項 本項ハ加重ノ模様ヲ定ム

人ノ住居ヲ侵ス罪ヲ加重スヘキ模様四アリ左ニ之ヲ説カン

第一 門戸牆壁及ヒ鎖鑰ハ故ナク人ノ邸宅若クハ建造物内ニ進入スルヲ防カンカ爲メニ設ケタルモノニシテ即チ邸宅建造物ニ向テ外衝ヲ防衛スルノ豫備ヲ爲シタルモノナリ然ルニ之ヲ踰越損壞若クハ開闢シテ進入スル者ハ之ヲ防シ難シ從テ其罪惡大ナリ故ニ一等ヲ加フヘシト定メタリ

第二 兇器ハ其質危險ナルノミナラス多クハ犯罪ノ用

ニ供スルモノナリ故ニ兇器ヲ携帯スルカ其他何ニ限ラ
 ス犯罪ノ用ニ供スヘキ物品ヲ携帯シ入リタルトキハ其
 犯罪ノ豫備タルノ推測充分ナルノミナラス亦其大害ヲ
 致スノ恐レアリ故ニ一等ヲ加フヘシト定メタリ
 第三 粗暴惡虐ノ行爲ヲ以テ入リタル者ハ之ヲ住人看
 守者ノ覺隙ヲ覘ヒ潛入シタル者ニ比スレハ之ヲ防シニ
 難ク之ヲ行フニ易ク且其害惡ヤ大ナリ故ニ一等ヲ加フ
 ヘシト定メタリ

第四 二人以上ニテ事ヲ行フトキハ之ヲ防シニ難ク之
 ヲ行フニ易シ故ニ之ヲ以テ一ノ加重ノ模様ト爲シタリ

○或問テ曰ク本條ニ定メタル加重ノ模様ハ一箇毎ニ一
 等ヲ加フルモノナル乎二箇三箇ノ模様アルモ止ク一等

ヲ加フルモノナル乎將タ四箇ノ模様ヲ具備スルニ非サ
 レハ其刑ヲ加重セサルノ意乎ト曰ク第三百七十九條ニ
 ハ一箇毎ニ一等ヲ加フトアリ然ルニ本項ニハ唯左ニ記
 載シタル所爲アル時ハ一等ヲ加フトノミアレハ一箇毎
 ニ一等ヲ加フルモノト解スルヲ得ス又刑法草案第五條
 ノ如ク具備云々ノ明文ナキカ故ニ四箇ノ模様具備スル
 ニ非サレハ一等ヲ加ヘサルモノト説ク能ハス必スヤ本
 項ハ一箇ノ模様アルモ四箇ノ模様アルモ止ク一等ヲ加
 フルモノト定釋セサルヘカラサルナリ

右ノ如ク一箇ノ模様アルト四箇ノ模様アルトニ關セス
 常ニ一等ヲ加フルノ法ハ果テ能ク其當ヲ得タル乎高木
 氏 刑法解曰ク第三百七十九條ノ強盜犯ニ在テハ二人以上

共ニ犯シタル時及ヒ兇器ヲ携帯シテ犯シタル時ハ各其一箇毎ニ加等ヲ爲シ而シテ此條住所ヲ侵スノ罪ニ於ル亦其情狀ヲ列記シ而シテ其一所爲ニ止マルモ三箇四箇ノ所爲アルモ等シク一等ヲ加フルニ止マルハ何ソヤ蓋シ強盜ハ暴行脅迫ヲ以テ犯スハ罪ナリ(第三百七十八條)故ニ若シ其犯者數人ニシテ且其兇器ヲ携帯スル時ハ脅迫ニ暴行ニ愈々其勢力ヲ加ヘ其害亦從テ重大ナラサルヲ得ス是レ其強盜ニ於ケル加等ノ情狀ニ就テハ各箇一等ヲ加フル所以ナリ而シテ此條其一箇毎ニ加等ヲ爲サ、ルモノハ蓋シ其罪ノ性質相異ナルニ因テナリ若シ其侵入スル者ヲシテ刺客姦人若シハ強竊盜タラシムルモ唯其晝間人ノ家宅ニ侵入スル而已ナリ以テハ未タ謀故殺

傷又ハ強姦又ハ強竊盜ノ未遂犯タモ成立セサルナリ之ヲ其豫備ノ所爲ト謂フ其目的ノ判然タラサル者ハ之ヲ罰スルヲ得ス此條之ヲ罰スルモノハ殺傷姦盜ノ豫備ヲ以テノ故ニ非ス家宅不侵ノ大權ヲ侵スヲ以テノ故ニ而已此家宅ヲ侵ス者ニシテ四箇中ノ情狀アル時ハ其情稍々重キヲ加フト雖モ其實被害者及ヒ社會ニ於テ幾分カ畏懼ノ念慮ヲ増サシメタルニ過キス未タ厘毫ノ害ヲ加ヘス假令數箇ノ情狀並ヒ備ハルモ未タ其害ノ重大ヲ致シタリト謂フヲ得サルナリ唯其畏懼ヲ増ス一等ヲ加フル即チ可ナリ若シ唯此故ヲ以テ三等四等ヲ加フルニ至ラハ恐ラシハ他ノ重罪ト權衡ヲ失スル大ナラシムル是レ此條ノ第三百七十九條ト其處分ヲ異ニスル所以

ナリト説得テ妙ナルカ如シト雖モ未タ盡サ、ル所アリ
抑強盜罪ト故ナク人家ニ入ルノ罪トハ其性質ヲ異ニシ
且刑ニ輕重ノ差アルヤ固ヨリ明カナリ然レトモ其之ヲ
加重スルノ理ニ至テハ乃チ一ナリ若シ強盜犯加等ノ情
狀ニ就テ一箇毎ニ一等ヲ加フヘクンハ本條ノ場合ニ於
テモ亦一箇毎ニ一等ヲ加ヘサルヘカラス豈正理ニ彼此
アラシヤ今四箇ノ模様ヲ具備スルトキハ四等ヲ加フル
モノトセン乎二十二日以上一年以下ノ重禁錮ニ過キス
而シテ二人以上ニテ兇器ヲ携ヘ門戸ヲ損壞シ暴行ヲ爲
シ入リタル者ニ二十二日以上一年以下ノ刑ヲ科スル敢
テ重シトセス余ハ却テ其輕キヲ感スルモノナリ若シ然
ラスンハ二人以上ニテ竊ニ進入シタル者モ尙ホ此尤モ
危險ナル此尤モ暴戾ナル者ト至ク其刑ヲ同フスルニ至
ルヘシ此ノ如キハ決テ能ク其當ヲ得タルモノトイフヲ
得サルナリ故ニ本項ハ宜ク第三百七十九條ノ如ク改正
セテレンコトヲ希望ス

〔四〕○兇器トハ何シヤ吾カ刑法中往々兇器ノ語ヲ掲ケ之ヲ
携帶スルヲ以テ刑ノ加重ノ模様ト爲スコトアリ故ニ兇
器ノ何タルコトヲ一定スルハ殊ニ緊要事ナリトス然ル
ニ此刑法中兇器ノ何タルコトヲ定メス舊法ニハ凡強盜
腰刀鐵槍弓銃ヲ執持スル者ハ並ニ兇器ヲ持スト爲ス其
鎌刀菜刀小刀柴斧一切ノ棍棒等人ヲ殺傷スルニ堪ル者
ハ皆兇器ヲ以テ論ストアリキ又佛朗西刑法第百一條ニ
ハ兵器ノ語中ニハ斫搦毆ヲ爲ス諸器械諸器具ヲ包含ス

懷中ノ小刀剪刀及ヒ尋常ノ杖ハ人ヲ殺傷シ又ハ之ヲ毆
 打スル爲メ用ヒタルトキニ非サレハ之ヲ兵器ト看做ス
 ヘカラストアリ今其當否ハ暫ク之ヲ擱キ法律上之カ定
 解ヲ與フルカ故ニ實際困難ヲ生スルコト少ナシト雖モ
 吾カ刑法ノ如ク毫モ之カ定解ヲ示サハルトキハ實際區
 々ニ涉リ頗ル困難ヲ免カレサルコトハ既ニ世人ノ汎知
 スル所ナリ今道理上兇器ノ何タルヲ解カンニ凡ソ兇器
 ニ二類アリ一ハ眞ノ兇器即チ其固有ノ性質兇器タルモ
 ノニシテ一ハ用法ニ因テ兇器タルモノナリ抑兇器トハ
 兵器ナリ生來主テ人ヲ殺傷スルカ爲メノ用ニ供スルモ
 ノナイフ腰刀ノ如キ鐵槍ノ如キ弓銃ノ如キ皆チ其固有
 ノ性質兇器タルモノナリ然ルニ其性質兇器ニ非スシテ
 用法ニ因リ始メテ兇器ト爲ルモノアリ例ヘハ鎌刀ノ如
 キ柴刀ノ如キ小刀ノ如キ柴斧ノ如キ又混棒ノ如キ其性
 質人ヲ殺傷スルカ爲メノモノニ非サレハ之ヲ眞ノ兇器
 トイフヘカラスト雖モ資テ以テ人ヲ殺傷シ若クハ脅迫
 スル等ノ用ニ供シ若クハ之ニ供セントスルトキハ之ヲ
 兇器トス然レトモ此場合ニ於テハ其器具ノ性質人ヲ殺
 傷スルニ堪ユルモノナルヲ要ス此ノ如ク兇器ヲ別テ二
 類ト爲シ一ヲ眞ノ兇器ト爲シ一ヲ用法ニ因テノ兇器ト
 爲スハ法律ノ推測彼此ニ就テ相異ナルノミ他ニ殊別ア
 ルニ非ス即チ腰刀ノ如キ其固有ノ性質人ヲ殺傷スルノ
 用ニ供スヘキモノヲ攜帶スルトキハ法律上直チニ人ヲ
 殺傷シ若クハ脅迫等ノ用ニ供センカ爲メ之ヲ攜帶スル

モノト推測シ菜刀ノ如キ人ヲ殺傷スルカ爲メノモノニ
非サルモノヲ携帯スルトキハ其人ヲ殺傷シ若クハ之ヲ
殺傷セント脅迫スル等ノ用ニ供シ若クハ之ニ供セント
スル旨ヲ審理確定シタル上ニ非サレハ之ヲ兇器ト爲サ
ズ然レトモ一旦兇器ナリト認メタル以上ハルニ輕重ヲ
生スルコトアラサルナリ

○佛刑法第百八十四條 凡ソ行政又ハ司法ノ官吏裁判
又ハ警察ノ官吏公力者又ハ其長官其身分ヲ以テ事
ヲ行フニ當リ法律ニ定メタル場合ノ外且法律ニ定
メタル式ヲ履マステ國民ノ意ニ逆リ其住所ニ進
入シタル者ハ六日以上一年以下ノ禁錮及ヒ十六フ
ラソク以上五百フラソク以下ノ罰金ニ處セラルヘ

シ但第百十四條第二項ヲ適用スルノ妨ケト爲ルコ
トナカルヘシ

凡ソ脅迫又ハ暴行ヲ爲シテ國民ノ住所ニ進入シタ
ル者ハ六日以上三月以下ノ禁錮及ヒ十六フラソク
以上二百フラソク以下ノ罰金ニ處セラルヘシ〔刑〕九、
以下、五二以下、
〔治〕九、一六、一七、九、四八三以下、

第百七十二條

夜間故ナク人ノ住居シタル邸宅又ハ人ノ看守シタル
建造物ニ入りタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ
處ス
若シ前條ニ記載シタル加重ス可キ所爲アル時ハ一等
ヲ加フ

○本條ハ夜間故ナク人ノ住所ヲ侵シタル者ノ罪及ヒ其加重ノ模様ヲ定ム

夜間ハ裁判所ノ命令ヲ執行スルカ爲メト雖モ仍ホ人ノ住所ニ進入スルヲ得ス然ルニ故ナク之ニ進入シタル者ハ晝間故ナク之ニ進入シタル者ヨリモ一層嚴ニ之ヲ罰セサルヘカラサルコト固ヨリ明カナリ蓋シ夜間ハ人皆ナ安息シ看護充分ナラス他ノ救援ヲ求ムルコト難シ加之夜間故ナク人ノ住所等ニ入ル者ハ晝間故ナク人ノ住所等ニ入ル者ヨリモ罪ヲ犯スカ爲メナリトノ推測強シ故ニ本條ニ於テハ前條ノ刑ニ倍スル一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處スヘシト定メ且前條ニ定メタル加重ノ模様アルトキハ尙ホ一等ヲ加フヘシト定メタリ

夜間トハ何時ヨリ何時マテヲ指ス乎刑法ニ之カ定メナシト雖モ治罪法ニ於テハ日出日没ノ前後ヲ以テ晝夜ヲ區別ス此區別タル全ク自然ニ基クモノナレハ刑法ニ於テモ亦此區別ニ從ヒ日出日没ノ前後ヲ以テ晝夜ノ區別ヲ爲スヘキナリ

○佛刑法第百八十四條前條ニ全文ヲ掲ク

第百七十三條

故ナク皇居禁苑離宮行在所及ヒ皇陵内ニ入リタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

○本條ハ故ナク皇居禁苑等ニ入リタル者ノ罪ヲ定ム皇居禁苑等ハ他ノ邸宅建造物ト同一視スヘカラス之ニ立入り犯スコトアルヘキ罪ハ他ノ邸宅等ニ入リ犯スコ

トアルヘキ罪ヨリモ一層重キモノナレハ之ヲ嚴罰シテ以テ豫メ危害ヲ防カサルヘカラス故ニ本條ニ前二條ノ例ニ照シ一等ヲ加フヘシト定メタリ
若シ本條ノ罪ヲ犯シ第百七十一條第二項ニ定メタル加重ノ模様アルトキハ尙ホ一等ヲ加フルモノナリ

第八節 官ノ封印ヲ破棄スル罪

○本節凡テ三條官ノ封印ヲ破棄スル罪ヲ定ム
官ノ封印ヲ破棄スル罪ハ官ノ處分ヲ害スルモノニシテ即チ公權ニ對スルノ罪ナリ故ニ之ヲ本編第三章中ニ定メタリ

第百七十四條

官署ノ處分ニ因リ特別ニ家屋倉庫其他ノ物件ニ施シタル封印ヲ破棄シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ看守者自ラ犯シタル時ハ一等ヲ加フ

- 一 本條ノ主旨
- 二 第一項ノ解
- 三 第二項ノ解

〔一〕○本條ハ官署ノ處分ニ因リ特別ニ家屋倉庫其他ノ物件ニ施シタル封印ヲ破棄シタル者ノ罪ヲ定ム

〔二〕○第一項 本項ハ官ノ封印ヲ破棄シタル者ノ罪ヲ定ム
官署ノ處分ニ因リ特別ニ家屋倉庫其他ノ物件ニ施シタル封印トハ例ヘハ家資分散ノ處分ヲ受ケタル者ノ家屋

倉庫等或ハ罪證タルヘキ書類物件或ハ犯則ノ器具製造所等ヲ緘封シ之ニ行政司法ノ官署若クハ當該官吏ノ印章ヲ捺シタルモノチイフ此等ノ封印ハ官ニ於テハ特別ノ理由アルカ故ニ施スモノナレハ人民縱マ、ニ之ヲ破棄スヘカラス之ヲ破棄スルハ即チ官ノ處分ヲ害スルモノナリ且此罪タル公益ヲ害スルコト敢テ小ナリトモ官ノ封印アルモノハ人縱マ、ニ之ヲ開封セスト雖モ其封印破棄シアルトキハ其書類物件等ヲ盜奪毀壞シ或ハ錯亂紛失スル者アルニ至リ因テ以テ或ハ罪證ヲ湮滅シ或ハ世ノ危險ヲ醸生シ或ハ權利者ノ權利ヲ害スル等其害舉テ數フヘカラス故ニ封印アル物件ヲ毀壞盜奪セスト雖モ官ノ封印ヲ破棄シタルトキハ之ヲ以テ罪ト爲シ

嚴罰スルモノナリ

○本項ニ特別ノ語アリ輕忽ニ看過スヘカラス特別ニ官署ノ處分ニ因リ施シタル封印ヲ破棄シタル者ハ之ヲ罰スヘキモ平常官署ノ往復文書ノ封印ヲ破棄シタル者ノ如キハ本條ノ正面ニ當ラサルナリ

〔三〕○第二項 本項ハ看守者自ラ封印ヲ破棄シタルトキハ一等ヲ加フヘキ旨ヲ定ム

官署ニ於テ封印ヲ破棄スル者ヲ防カンカ爲メ特ニ看守者ヲ置クコトアリ看守者ハ其職務上封印ヲ保看セサルヘカラス然ルニ已レ之ヲ破棄スルハ其職務ヲ輕瀆スルモノニシテ常人ト同一視スルヲ得ス且之ヲ常人ニ比スレハ之ヲ行フ易ク之ヲ防ク難シ故ニ本刑ニ一等ヲ加フ

ヘシト定メタリ

○佛刑法第二百五十一條千八百六十三年 何人ニ限ラ

ス故ラニ前條ニ定メタル書類物件ニ施シタル封印
ヲ破棄シ又ハ破棄ヲ試ミ若クハ封印ノ破棄又ハ其
試犯ニ加功シタル者ハ一年以上三年以下ノ禁錮ニ
處セラルヘシ

若シ看守者自ラ封印ヲ破棄シ又ハ之ニ加功シタル
トキハ二年以上五年以下ノ禁錮ニ處セラルヘシ
何レノ場合ニ於テモ犯人ハ五十フランク以上二千
「フランク」以下ノ罰金ニ處セラルヘシ
又犯人ハ其刑ヲ受ケ了リタル日ヨリ五年以上十年
以下ノ時間此法典第四十二條ニ定メタル權利ヲ剝

奪セラル、コトアルヘシ又同一ノ時間監視ニ付セ

ラル、コトアルヘシ〔刑〕九、一、四〇以下、〔治〕一、七、九、

同第二百五十二條 他ノ封印ヲ破棄シタルトキハ犯
人六月以上二年以下ノ禁錮ニ處セラルヘシ且若シ
看守者自ラ犯シタルトキハ二年以上五年以下ノ禁
錮ニ處セラルヘシ〔刑〕九、一、四〇以下、二、四、九、

第七十五條

官ノ封印ヲ破棄シテ其物件ヲ盜取シ又ハ毀壞シタル
者ハ盜罪及ヒ毀壞ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス
〔刑〕三、六、六以下、三、七、八以下、四、一、七以下、

- 一 本條ノ解附本條ヲ改正スヘキノ説
- 二 所有主自ラ物件ヲ毀壞盜取シタルトキハ如何

三 看守者自ラ本條ノ罪ヲ犯シタルトキハ如何

〔一〕〇本條ハ官ノ封印ヲ破棄シ其物件ヲ毀壞盜取シタル者ノ罪ヲ定ム

官ノ封印ヲ破棄シテ其物件ヲ盜取毀壞シタル場合ニ於テハ官ノ封印ヲ破棄シタルコトハ盜取若シハ毀壞ノ一方法ニ過キス然レトモ官ノ封印ヲ破棄スルコトハ獨立シテ一罪ヲ爲スモノナレハ數罪俱發ノ例ニ照シ一ノ重キニ從テ處斷スヘシト定メタリ

或曰ク官ノ處分ニ因リ特別ニ封印ヲ施シタル物件ヲ盜取シ若シハ之ヲ毀壞スルハ官ニ財產ニ對スル罪タルノミナラス亦公權ヲ蔑如シ直接ニ公益ヲ害スルノ罪ナリ故ニ盜罪及ヒ毀壞ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷スル

ニ止メスシテ佛朗西刑法ノ如ク特ニ之ヲ嚴罰スル方可ナルヘシト曰ク然リ然レトモ立法官ニ於テ此ノ如ク定メタルモノハ封印ヲ破棄スルハ官ノ處分ヲ害スルモノニシテ直接ニ公權ニ對スル罪ナリト雖モ物件ヲ盜取シ若シハ之ヲ毀壞スルハ其性質尋常財產ニ對スル罪ノ如キカ故ニ盜罪及ヒ毀壞ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷スヘシト定メタルナラン然レトモ官ノ封印ヲ施シタル物件ヲ毀壞盜取スルト通常ノ物件ヲ毀壞盜取スルトハ一概ニ論スルヲ得ス佛朗西刑法趣意書ニ曰ク公ケノ預リ所ハ侵スヘカラサルノ隱匿所ナリ其預リ所ニ在ル物品ヲ取ルハ社會ノ信憑ヲ侵シ公衆ノ信用ヲ害スルモノナリト宜ナル哉言ヤ故ニ余ハ或者ノ說ニ同意シ立法官

ニ向テ本條ヲ改正セラレシコトヲ希望ス

〔二〕〇或問テ曰ク若シ所有主自ラ其物件ヲ盜取シ若クハ之ヲ毀壞シタルトキハ如何ト高木氏刑法曰ク假令其所有者タリト雖モ仍ホ此條ニ照シテ處斷ス蓋シ既ニ官署ノ封印ヲ施ス時ハ其所有ノ正權ハ公益ノ爲メ一時官署ニ沒収セララル、者ニシテ之ヲ閱見スルコト爲シ得サルナリ況ンヤ之ヲ竊取若クハ毀壞スルヲヤト此説是ナリ官ニ於テ書類物件等ニ封印ヲ施スハ人民ノ之ヲ自由ニスルスルヲ禁センカ爲メナリ若シ所有主ニ之ヲ自由ニスルヲ許シテ妨ケナクシハ官ニ於テ封印ヲ施スノ理ナシ故ニ一旦官ニ於テ封印シタル物件ハ所有主ノモノニシテ所有主ノモノニ非ス故ニ之ヲ盜取シ若クハ毀壞シタル

者ハ本條ニ依リ之ヲ罰セサルヘカラサルナリ第三百七十一條ニ曰ク自己ノ所有物ト雖モ官署ノ命令ニ因リ他人ノ看守シタル時之ヲ竊取シタル者ハ竊盜ヲ以テ論スト蓋シ此ノ如キ場合ヲ指シタルモノナリ

〔三〕〇或又問テ曰ク前條ニ於テハ看守者ノ爲メ特例ヲ設ケタリト雖モ本條ニ之ニ關スル法ナキハ前後其權衡ヲ失スルモノニ非スヤト曰ク草案ニ於テハ第二百三條乃至第二百六條ニ官ノ封印ヲ破棄シ及ヒ其物件ヲ竊取毀壞シタルノ罪ヲ定メ而シテ第二百七條ニ監守者其他裁判所所屬ノ者ノ爲メ刑ヲ加重スヘキノ法ヲ定メタリ故ニ看守者自ラ本條ノ罪ヲ犯ストキハ其刑ヲ加重スルヲ得タリシト雖モ此刑法ニ於テハ前條ニ看守者ニ關スル規

則チ定メテ本條ニ之ヲ定メサレハ第二百九十八條ニ該ルヘキモノハ格別官吏ニ非サル看守者盜ヲ爲シ又ハ官吏物件ヲ毀壞シタル場合ノ如キハ其刑ヲ加重スルヲ得ス故ニ往々前條ト其權衡ヲ同フスルヲ得サルコトアリ因テ本條ニモ亦前條第二項ト同一ノ規則ヲ設ケラレンコトヲ希望ス

○佛刑法第二百五十三條 凡ソ封印ヲ破棄シテ犯シタル盜罪ハ(門戶牆壁ヲ)損壞シタル盜罪ト同ク罰セラ

ルヘシ [刑]三八四、
同第二百五十五條 何人ニ限ラス前條ニ定メタル竊取毀壞ノ罪ヲ犯シタル者ハ懲役ニ處セラレヘシ [刑]二、三一、四、三、六、四、七、
七、

若シ預リ人自ラ重罪ヲ犯シタルトキハ有期徒刑ニ處セラレヘシ [刑]七、一、五、一、六、一、九、二、三、二、八、三、二

同第二百五十六條 若シ人ニ對シ暴行ヲ爲シテ封印ヲ破棄シ書類物件ヲ盜取シ又ハ毀壞シタルトキハ其刑ハ何人ニ對シテモ有期徒刑ナリトス但暴行及ヒ之ニ附從スル他ノ重罪ノ爲メ重キ刑ヲ適用スルノ妨ケト爲ルコトナカルヘシ [刑]七、一、五、一、六、一、九、二、三、二、八、三、二、
四、七、
七、

第百七十六條

看守者其懈怠ニ因リ封印ヲ破棄シ又ハ其物件ヲ盜取毀壞スル犯人アルヲ覺ラサル時ハ二圓以上二拾圓以下ノ罰金ニ處ス [刑]一五〇、

○本條ハ看守者其懈怠ニ因リ前二條ノ犯人アルコトヲ覺ラサルトキノ罪ヲ定ム

看守者ハ人ノ封印ヲ破棄シ若クハ封印アル物件ヲ毀壞盜取スル者ヲ防カサルヘカラス然ルニ其懈怠ニ因リ之ヲ覺ラサルトキハ必スシモ之ヲ罰シテ以テ其失職ヲ責メサルヘカラス是レ本條ノ設ケアル所以ナリ

○佛刑法第二百四十九條 政府ノ命令又ハ何事件ニ限ラス裁判所ノ命令ニ因リ施シタル封印破毀セラレタルトキハ看守者單ニ懈怠アルノミニテ六日以上六月以下ノ禁錮ニ處セラレヘシ刑九、四〇以下、治一、七九

同第二百五十條 死刑無期徒刑又ハ流刑ニ該ルヘキ重罪ノ爲メ訴ヘラレ又ハ此等ノ刑ノ一ヲ言渡サレ

タル者ニ關スル書類物件ニ施シタル封印ヲ破毀セラレタルトキハ懈怠アル看守者ハ六月以上二年以下ノ禁錮ニ處セラレヘシ刑九、四〇以下、二五一、治一、七九

同第二百五十四條 藏書局書記局又ハ公ケノ預リ所ニ藏シ又ハ公ケノ預リ人ニ預ケタル刑事ノ書類刑事訴訟書類其他ノ書類簿冊物件ヲ竊取シ又ハ毀壞シタルトキハ其刑ハ懈怠アル書記藏書官吏公證人其他預リ人ニ對シ三月以上一年以下ノ禁錮及ヒ百フラン以上三百フラン以下ノ罰金ナリトス刑九、四〇以下、五、治一、七九

第九節 公務ヲ行フヲ拒ム罪

第百七十六條 公務ヲ行フヲ拒ム罪

○本節凡テ五條公務ヲ行フヲ拒ム罪ヲ定ム
 公務ハ公益ノ爲メ行フヘキモノナリ故ニ之ヲ行フヲ拒
 ム者ハ直接ニ公益ヲ害スルモノナリ是レ本編第三章中
 ニ此罪ヲ定メタル所以ナリ然レトモ本節ハ一切ノ公務
 ヲ行フヲ拒ムノ罪ヲ定ムルモノニ非ス其尤モ公益ヲ害
 シ刑法上罰セサルヘカラサルモノ、ミテ定メタリ其詳
 細ハ各本條ニ就テ之ヲ開説スヘシ

第七十七條

陸海軍ノ將校タル者出兵ヲ要求スル權アル官署ヨリ
 其要求ヲ受ケ故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ二月以上
 二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金
 ヲ附加ス〔刑〕二七四

○本條ハ陸海軍ノ將校タル者出兵ヲ要求スルノ權アル
 官署ノ要求ヲ受ケ故ナク之ニ應セサル者ノ罪ヲ定ム
 出兵ヲ要求スルノ權アル官署トハ何ソヤ司法行政ノ官
 署是レナリ明治十四年第八十二號達ニ曰ク司法官吏ヨ
 リ巡查及ヒ兵員ヲ要求使用スルニハ左ノ手續ニ從フヘ
 シ此旨和達候事第一條裁判官檢察官司法警察官治罪法
 ニ從ヒ檢證及ヒ物件差押其他職務ヲ行フニ當リ必要ナ
 ル時ハ警察所又ハ憲兵屯所ニ照會シテ巡查又ハ憲兵卒
 ヲ使用スルヲ得但事機緊要ナル時ハ直ニ之ヲ使用ス
 ルコトヲ得第二條前條ノ場合ニ於テ事緊急重要ニ涉ル
 時ハ直ニ鎮臺又ハ分營ニ照會シテ兵力ヲ要求スルヲ得
 得ト是等ノ官吏ハ事ニ臨テ出兵ヲ要求スルヲ得ル者ナ

レハ陸海軍ノ將校タル者ハ必ス之ニ應シテ其兵ヲ出サ
 ヲルヘカラス然ルニ之ニ應セサルハ管ニ其職ヲ失スル
 ノミナラス亦大ニ公益ヲ害スルモノナリ例ヘハ一揆暴
 動等ノ場合ニ於テ當該官ヨリ鎮撫ノ爲メ出兵ヲ要求ス
 ルニ當リ將校若シ事故ナクシテ出兵ヲ肯セサル如キコ
 トアラハ禍亂愈長シ暴徒ヲシテ徒ラニ其猖獗ヲ逞フセ
 シメ兇悞戾逆毒ヲ良民ニ糝播シ其害竟ニ救フヘカラサ
 ルニ至ラン故ニ故ナク出兵ヲ肯セサル將校ハ二月以上
 二年以下ノ輕禁錮五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處スヘ
 シト定メタリ

本條ニハ出兵ヲ要求スルノ權アル官署云々トアリ故ニ
 出兵ヲ命スルノ權アル官署ノ命令ニ應セサル者ハ本條
 ノ關知スル所ニ非ス陸海軍刑法ニ依テ之ヲ處斷スヘキ
 ナリ

○佛刑法第二百三十四條 凡ソ公力ヲ指揮スル者其主
 官及ヒ下士官文官ヨリ適法ノ要求ヲ受ケ其配下ノ
 公力ヲ動かサスヲ肯セサルトキハ一月以上三月以下
 ノ禁錮ニ處セラルヘシ但此法典第十條ニ從ヒ損害
 賠償ヲ爲スノ妨ケト爲ルコトナカルヘシ 〔刑九四一〇〕
 〔海一四九三七八二〕

第七十八條

陸海軍ノ徵兵ニ編入セラル可キ者身體ヲ毀傷シテ疾
 病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ以テ免役ヲ圖リタル時
 ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓

以下ノ罰金ヲ附加ス〔刑〕二一六、

若シ他人ニ囑託シ其氏名ヲ詐稱シ代テ徵募ニ應セシ
メタル者亦同シ其囑託ヲ受ケテ徵募ニ應シタル者ハ
第二百三十一條ノ例ニ照シテ處斷ス

一 本條ノ主旨

二 第一項ノ解 附 徵兵令第四十四條ノ解

三 第二項ノ解

四 免役又ハ猶豫セラルヘキ者本條ノ罪ヲ犯シタル
トキハ如何

〔一〕〇本條ハ陸海軍ノ徵兵ニ編入セラルヘキ者詐偽ヲ以テ
免役ヲ圖リタルノ罪及ヒ人ノ囑託ヲ受ケ氏名ヲ詐稱シ
テ徵募ニ應シタル者ノ罪ヲ定ム

〔二〕〇第一項 本項ハ徵兵ニ編入セラルヘキ者免役ヲ圖リ
タルノ罪ヲ定ム

兵ハ邦國外部ノ獨立ヲ維持シ内部ノ安全ヲ保護スルノ
一大要具ナリ故ニ苟モ日本人タル者ハ必ス之カ徵募
ニ應シ應分ノ力ヲ竭シ以テ國民タルノ義務ヲ行ハサル
ヘカラス是レ蓋シ他人ノ爲メニスルニ非ス自己ノ爲メ
ニスルモノナリ然レトモ兵役ニ就クハ掌裡ノ利益ナク
シテ目前ノ痛楚ヲ覺ユルカ故ニ勸庸ノ士民ハ往々之ヲ
忌避シ國民ノ義務ヲ妄却シテ免役ヲ圖ルコトアリ而シ
テ此所爲タル公益ノ爲メニ行フヘキ義務ヲ拒ムモノナ
レハ直接ニ公益ヲ害スルモノナリ是レ本條ニ一月以上
一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ

處スヘシト定メクル所以ナリ

本項ニ於テハ免役ヲ圖ルノ所爲ヲ定メテ身體ヲ毀傷シテ疾病ヲ作爲シ其他詐欺ノ所爲云々トセリ身體ヲ毀傷シテ疾病ヲ作爲スルトハ或ハ一肢ヲ折リ一目ヲ瞎シ一耳ヲ聾シ以テ免役ヲ圖ルノ類ナイフ其他詐欺ノ所爲ヲ爲ストハ徵兵令第三章ニ定メタル免除及ヒ猶豫ノ者ナリト信セシメンカ爲メ詐欺ノ術策ヲ施シ以テ兵役ヲ免カレンコトヲ圖ルナイフ然ルニ本項ニハ未タ陷缺ヲ免カレサルモノアリ兵役ヲ免カレンカ爲メ逃亡シ若クハ潜匿シタル者ノ如キ詐欺ノ所爲トイフヲ得サルカ故ニ之ヲ罰スルヲ得サルコト及ヒ身體ヲ毀傷セスシテ疾病ヲ作爲シ又ハ疾病ヲ作爲セスト雖モ身體ヲ毀傷シタル者ヲ脱スルコト是レナリ幸ニシテ明治十六年第四十六號布告徵兵令第四十四條ヲ以テ此點ヲ補充セリ曰ク兵役ヲ免カレンカ爲メ逃亡シ又ハ潜匿シ若クハ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐欺ノ所爲アル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加スト該條ニハ明カニ逃亡潜匿ノコトヲ示シタルカ故ニ實際兵役ヲ免カレンカ爲メ逃亡又ハ潜匿シタル者ヲ罰スルヲ得ヘク又身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シトアリテ身體毀傷ト疾病作爲トヲ別異ニシタルカ故ニ其包含スル所極メテ廣シ本項ノ如ク身體毀傷ヲ以テ疾病ヲ作爲スルノ一方法ト爲スニ止ラサルナリ

或問テ曰ク徵兵令ニ本項ト同一ノ規則ヲ定メタル以上

ハ本項ハ徵兵令ニ因リ廢滅ニ屬シタルモノト見做スヘキ乎ト曰ク然リ徵兵令ハ普通法ニ非ス特別法ナリ而シテ徵兵令ノ布告ハ明治十六年ニ在テ此刑法頒布以後ノモノナレハ必ス徵兵令ニ依リ處斷セサルヘカラス是レ既ニ總則第四條第五條ニ於テ開說セシ所ナリ

〔三〕〇第二項

本項ハ他人ヲシテ代テ徵募ニ應セシメタル者及ヒ代テ徵募ニ應シタル者ノ罪ヲ定ム

前項ノ罪ハ全ク兵役ヲ免カレノコトヲ圖リタルノ罪ニシテ本項ハ他人ヲシテ代テ徵募ニ應セシメタルノ罪ナリ他人ヲシテ代テ徵募ニ應セシメタルトキハ己レ公務ヲ免カレタルノミ官ニ於テハ其代人ヲ得タルカ故ニ別ニ利害ナキカ如シ然ルニ本項ニ於テ之ヲ罰スルニ前項

ト同一ノ刑ヲ以テスルモノハ何ソヤ是レ此者ハ官ヲ欺キ國民ノ義務ヲ盡サ、ルモノナレハ其罪過敢テ前項ノ犯人ニ讓ラズ且此ノ如キ者ヲ嚴罰セサルトキハ富民勢士ハ必ス金力勢威ヲ以テ代人ヲ求メ常ニ兵役ヲ免カル、ニ至リ其弊害ノ浸染スル所敢テ小ナラサルナリ故ニ前項ト同ク之ヲ罰スヘシト定メタルナリ
徵兵ニ編入セラルヘキ者ノ囑託ヲ受ケ氏名ヲ詐稱シテ徵募ニ應シタル者ハ其性質タル共犯ナリト雖モ人ノ忌避スル所ノ兵役ニ就キタル者ナレハ其情亦大ニ恕スヘキモノアリ故ニ之ヲ共犯トシテ罰セス第二百三十一條ニ依リ氏名等ヲ詐稱シタルノ罪ノミヲ問フヘシト定メタリ是レ能ク其當ヲ得タルモノナリ

〔四〕○或問テ曰ク兵役ヲ免カレ又ハ猶豫セラルヘキ者徵募セラルヘシト誤信シ本條ノ罪ヲ犯シタルトキハ如何ト曰ク此レ一種ノ無能犯ナリ故ニ之ヲ罰スルヲ得ス然レトモ其兵役ヲ免カレンガ爲メ行ヒタル所爲獨立シテ罪ト爲ルヘキトキハ其刑ヲ免カル、ヲ得サルナリ

○佛刑法第二百三十五條 徵兵ニ關スル刑法其他ノ規則ハ引續キ之ヲ施行スヘシ

第七十九條

醫師化學家其他職業ニ因リ官署ヨリ解剖分析又ハ鑑定ヲ命セラレタル者故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ニ處ス〔治〕一九一以下、

○本條ハ醫師鑑定人故ナク官ノ命令ヲ肯セサルトキノ罪ヲ定ム

官署ヨリ醫師化學家等ニ解剖分析鑑定等ヲ命スルコトアリ此場合ニ於テ醫師化學家等ノ其命セラレタル事ヲ行フハ一ノ公務ナリ故ニ故ナクシテ之ヲ肯セサルトキハ必ス之ヲ罰シテ以テ其公益ヲ害スルノ罪ヲ責メサルヘカラス是レ本條ノ設ケアル所以ナリ

或曰ク醫師化學家其他學識職業ニ因リ鑑定ヲ爲シ得ル者ハ其類頗ル多シ一人之ヲ肯セサルトテ敢テ公益ヲ害スルコトナカルヘシト曰ク否ト緊急一瞬時ト雖モ猶ホ忽セニスヘカラサル場合等ニ於テ一人之ヲ肯セサルトキハ其公益ヲ害スル小ナラサルノミナラス官ノ命令ニ因リ解剖分析鑑定等ヲ爲スハ一ノ公務ナレハ故ナクシ

テ之ヲ肯セサル者ハ之ヲ罰シテ敢テ其妨ケアラサルナ
 リ
 或問テ曰ク治罪法第百九十五條ニ第百八十一條第百八
 十二條ニ記載シタル者ニハ鑑定ヲ命スルヲ得ス但急
 遽ノ際正當ノ鑑定人ト爲ル可キ者ナキ時ハ事實參考ノ
 爲メ鑑定ヲ命スルヲ得トアリ今事實參考ノ爲メ鑑定
 ナ命セラレタル者鑑定ヲ肯セサルトキハ如何スヘキ乎
 ト曰ク本條ニハ廣ク醫師化學家云々トアリテ其事實參
 考ノ爲メナルト否トナ區別セサルカ故ニ事實參考ノ爲
 メ鑑定ヲ命セラレタル者故ナク之ヲ肯セサルトキ亦本
 條ニ依リ之ヲ罰スヘキカ如シ然レトモ此ノ如クスルト
 キハ證人ト全ク權衡ヲ失スヘシ故ニ治罪法第百九十四
 條ノ規則ヲ以テ立法ノ精神ト爲シ正當ノ鑑定人即チ宣
 誓ヲ爲シタル者之ヲ肯セサルトキノミ本條ニ依リ處斷
 スルモノト解セサルヘカラサルナリ
 然レトモ事實參考ノ爲メ鑑定ヲ命セラレタル者ハ故ナ
 ク之ヲ肯セサルモ全ク其罪ナシトスルハ能ク其當ヲ得
 タルモノニ非サレハ證人ニ關スル法ト共ニ事實參考人
 ハ一等ヲ減シテ之ヲ罰スルノ法ヲ定メラレヌトナ希
 望ス

治罪法第九十四條ニ曰ク鑑定人宣誓ヲ肯セヌ云々ト故
 ニ宣誓ヲ肯セサル者亦本條ニ依リ之ヲ罰スヘキナリ

第百八十條

裁判所ヨリ證人トシテ證據ヲ陳述スルヲ命セラレ

タル者故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ亦前條ニ同シ〔注一〕

以下○

○本條ハ證人故ナク陳述ヲ肯セサルノ罪ヲ定ム

民刑ヲ問ハス證人トハ其親シ見聞シタル事柄ヲ備サニ陳述スヘキ者ナレハ之ヲ他人ニ求ムヘカラス必ス其事柄ヲ見聞シタル者ナラサルヘカラス故ニ證人陳述ヲ肯セサルトキ他ノ者ヲシテ之ニ代ラシムルコトハ決テ爲シ能ハサルコトナリ夫レ然リ故ニ民刑ニ付キ證據ヲ陳述スヘキ者故ナク之ヲ肯セサルトキハ爲メニ裁判所ノ處分ヲ害シ或ハ之ヲシテ誤判ヲ爲サシムル等ノ憂アリ故ニ本條ヲ設ケ之ヲ罰スヘシト定メタリ然レトモ余竊ニ考フルニ本條ノ刑ト前條ノ刑トナシテ同一ナラシメ

タルハ恐クハ其當ヲ失スルモノナラン何トナレハ前條學識職業ニ因リ鑑定等ヲ爲スヲ得ル者ハ此レニ代フルニ彼レヲ以テスルモ敢テ妨ケナシト雖モ證人ハ他ノ者ヲシテ之ニ代ラシムルヲ得サレハ鑑定人等其事ヲ行フヲ肯セサルト證人陳述ヲ肯セサルトハ其公益ヲ害スル大小相同シカラサレハナリ故ニ本條ヲ改メ五圓以上五十圓以下ノ罰金トセラル、カ又ハ前條ノ刑ヲ減セラレシコトヲ希望ス
或問テ曰ク本條ニハ證人云々トアリ是レ眞ノ證人ノミナイフノ意ナル乎將タ事實參考人ヲモ包含スルモノナル乎ト曰ク治罪法ニ於テハ證人ト爲ルヲ得ヘキ者ト事實參考ノ爲メノ外陳述ヲ聽クヲ得サル者トノ區別ヲ定

メタリ故ニ本條ニ單ニ證人トアル以上ハ其中ニ事實參考人ヲ包含セシムルヲ得ス且治罪法第百八十三條ニ證人宣誓シテ陳述ヲ肯セサル時ハ云々刑法第百八十條ニ從ヒ罰金ヲ言渡スヘシト定メ以テ宣誓ヲ爲シタル眞ノ證人陳述ヲ肯セサル場合ニ非サレハ之ヲ罰セサルノ義ヲ明カニセリ然レトモ事實參考人ハ故ナク陳述ヲ肯セサルモ全ク之ヲ不問ニ付スルハ能ク其當ヲ得タルモノトスルヲ得ス何トナレハ證人ノ陳述ト事實參考人ノ陳述トハ法律上ノ推測幾分カ相異ナリト雖モ其證據タルノ効力ニ至テハ敢テ異同ナシ故ニ事實參考人ト雖モ故ナク陳述ヲ肯セサルトキハ裁判所ノ處分ヲ害スルノ恐アレハナリ然レトモ證人ト參考人トハ全ク同一視スル

ヲ得サレハ參考人ニ付テハ一等ヲ減シテ罰スルノ法ヲ設ケラレノコトヲ希望ス

治罪法第百八十條ニ曰ク證人宣誓ヲ肯セス云々ト宣誓ヲ爲スヘキ者之ヲ肯セサルハ其本心ト名譽トニ誓ヒ正實ノ陳述ヲ爲スヲ肯セサルモノナリ故ニ此ノ如キ者モ亦本條ニ依リ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處スヘキナリ

○佛刑法第二百三十六條 證人又ハ陪審其職務ヲ免カ
ル、爲メ詐偽ノ事由ヲ申立テタルトキハ其出席セ
サルニ因リ言渡ス罰金ノ外六日以上二月以下ノ重
禁錮ニ處セラルヘシ
〔刑九、四〇以下、治八〇、三八、一、六、
一五、七、一〇、一五、八、三、〇、四、三、九、六、
三、九、八〕

第百八十一條

傳染病流行ノ際又ハ傳染病ノ疑アル船舶入港スルニ當リ其病患ヲ検査シ又ハ消滅ノ方法ヲ陳述スルヲ命セラレタル者故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
獸類傳染病流行ノ際獸醫此條ノ罪ヲ犯シタル時ハ一等ヲ減ス

- 一 本條ノ主旨
- 二 第一項ノ解
- 三 第二項ノ解

〔二〕〇本條ハ傳染病ニ關シ人醫獸醫ノ公務ヲ行フヲ肯セサル罪ヲ定ム

〔二〕〇第一項 本項ハ傳染病ニ關シ人醫ノ公務ヲ行フヲ肯セサル罪ヲ定ム

醫師ハ管ニ其受持ツ所ノ人命ヲ預ルノミナラス亦一般人民ノ爲メニ其技術ヲ施サ、ルヘカラス今傳染病即チ虎列刺腸窒扶私赤痢實布埤利亞等流行ノ際又ハ傳染病ノ疑アル船舶入港シタルニ當リ醫師其病患ヲ検査シ又ハ消滅ノ方法ヲ陳述スルヲ命セラレ故ナクシテ之ヲ肯セサルトキハ其職業ニ背キ且公益ヲ害スル大ナリ故ニ本項ニ於テ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處スヘシト定メタリ
本項ニ定メタルノ外傳染病豫防規則ニ觸ル、者ハ同罰則ニ依リ之ヲ處斷スヘキナリ

〔三〕〇第二項 本項ハ獸醫ニ關スル罪ヲ定ム
 人ノ生命ト獸類ノ生命トハ其輕重相同シカラス人類ノ
 傳染病蔓延スルトキハ人命ヲ殞スル多シト雖モ獸類ノ
 傳染病蔓延スルトキハ唯財産ヲ失フニ過キス故ニ獸類
 傳染病ノ際獸醫此罪ヲ犯ストキハ一等ヲ減スヘシト定
 メタリ

第四章 信用ヲ害スル罪

〇本章凡テ九節トス第一節ハ貨幣ヲ偽造スル罪ヲ定メ
 第二節ハ官印ヲ偽造スル罪ヲ定メ第三節ハ官ノ文書ヲ
 偽造スル罪ヲ定メ第四節ハ私印私書ヲ偽造スル罪ヲ定
 メ第五節ハ免狀鑑札及ヒ疾病證書ヲ偽造スル罪ヲ定メ
 第六節ハ偽證ノ罪ヲ定メ第七節ハ度量衡ヲ偽造スル罪
 ヲ定メ第八節ハ身分詐稱スル罪ヲ定メ第九節ハ公選
 ノ投票ヲ偽造スル罪ヲ定ム何レモ一般ノ信用ヲ害スル
 ノ罪ナリ

本節ニ所謂信用トハ社會一般ノ信用ヲイフ抑一般ノ信
 用ハ社會ノ保成開達ニ欠クヘカラサルモノナリ若シ一
 日之レナカリセハ社會ノ秩序ハ分崩離析シ相互ノ聯絡
 ハ紊紛漸滅シ人民隻時モ能ク其堵ニ安スルヲ得サルヘ
 シ故ニ法律ハ此社會ノ保成開達ニ必要ナル信用ヲ害ス
 ル者ヲ罰シテ以テ公益ヲ維持シサルヘカラス是レ本章
 ノ設ケアル所以ナリ

第一節 貨幣ヲ偽造スル罪

第百八十一條 貨幣ヲ偽造スル罪

○本節凡テ十二條貨幣ヲ偽造スル罪ヲ定ム
 往昔未開ノ時ニ在テハ有無相易へ多寡相通シ以テ各人
 其世計ヲ營ミタリト雖モ此ノ如キハ流通不便ニシテ國
 家ノ經濟更ニ揚ラス隨テ凡百ノ事業起ラサルヲ以テ人
 民概テ貧困ニ委縮セリ故ニ腐敗スルコトナク變質スル
 コトナク常ニ價ヲ有シテ如何ナル物品トモ交換スルヲ
 得ヘキ一種ノモノヲ製シテ以テ世ノ流通ヲ便セサルヘ
 カラサルヲ覺リタリ是レ即チ貨幣ノ因テ起ル所以ナリ
 然ルニ若シ此貨幣ノ形體分量等ヲ一定セサルトキハ之
 チ通用セシムル難ク又其形體分量等ヲ一定スルモ各人
 自由ニ之ヲ造ルヲ許ストキハ私利ノ爲メ巧ミニ分量ヲ
 減殺シタルモノヲ造出シ人ヲシテ容易ニ貨幣ヲ受取ル

ヲ得サラシムルニ至ル故ニ專ラ公益ヲ慮リテ毫モ私利
 チ顧ミサル政府ニ於テ之ヲ製造シ以テ其分量ヲ一定シ
 且其分量ニ増減ナキ旨ヲ保證シ之ヲ世ニ通用セシム而
 シテ人民ノ一々細密ナル検査ヲ加フルコトナク貨幣ヲ
 授受スルモノハ是レ政府ノ造リタル貨幣ナレハ不正ノ
 モノニ非スト信スルノ厚キカ故ナリ然ルニ若シ人民私
 ニ貨幣ヲ造リ之ヲ行使スルトキハ人ヲシテ政府ノ製造
 ノ貨幣中ニ人民ノ偽造ニ係ルモノアリヤノ疑ヲ抱カシ
 ムルカ故ニ政府ノ貨幣モ亦從テ其信用ヲ失ヒ爲メニ貨
 幣ノ通用ヲ妨ケ其公益ヲ害スルコト少ナカラズ是レ貨
 幣偽造ノ罪ヲ公益ヲ害スル罪ト爲シ且信用ヲ害スル罪
 ト爲シタル所以ナリ

第百八十二條

内國通用ノ金銀貨及ヒ紙幣ヲ偽造シテ行使シタル者
ハ無期徒刑ニ處ス〔刑〕三九二、

若シ變造シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス 同上

一 本條ノ主旨

二 第一項ノ解○人民私ニ紙幣ヲ發行シタルトキハ

如何處分スヘキ乎

三 第二項ノ解○銀貨銅貨ニ金銀ヲ鍍シテ金銀貨ヲ

造リタル者ハ如何

〔一〕○本條ハ内國通用ノ金銀貨及ヒ紙幣ヲ造偽シ若クハ變
造シテ行使シタル者ノ罪ヲ定ム

〔二〕○第一項 本項ハ金銀貨及ヒ紙幣ヲ偽造シテ行使シタ

ル者ノ罪ヲ定ム

内國通用ノ貨幣トハ法律上通用ヲ命シタルモノ、ミナ
イフ平將ヲ法律上通用ヲ許サレタルモノヲモ包含スヘ
キ平高木氏義利法曰ク通用ノ金銀貨及ヒ紙幣トハ政府ノ
命令ニ依リテ日本全國中ニ通用セサルヲ得サルモノ(通

用シ得ルモノト異ナリ)ニシテ即チ權利者ノ受納ヲ拒ム
ト能ハサル所ノ貨幣ヲ謂フナリト今刑法草案ヲ閱スル
ニ其第百十四條ニ内國貨幣ト外國貨幣トヲ問ハス法
律上通用ヲ命シタルモノヲ偽造變造シタル者ノ罪ヲ定
メ第百十五條及ヒ第百十八條ニ内國通用ヲ許サレ
タル貨幣ヲ偽造變造シタル者ノ罪ヲ定メタリキ然ルニ
此區別ヲ削除シテ單ニ内國通用ノ貨幣云々ト書シタル

ニ因リ本條ニ所謂内國通用ノ貨幣トハ法律上通用ヲ命シタルモノト唯之ヲ許シタルモノトヲ併セ指スモノト解セサルヘカラサルナリ

或曰ク法律上通用ヲ命シタル貨幣ハ何人ト雖モ之ヲ受取ラサルヘカラサレハ之ヲ偽造シ若クハ變造スルトキハ一般ノ信用ヲ害スル大ナリト雖モ唯通用ヲ許シタル貨幣ハ人民ニ之ヲ受取ルヘキノ義務ナシ故ニ縱ヒ之ヲ偽造變造スル者アルモ其公益ヲ害スルコト少ナシ然ルニ彼此同刑ニ處スルハ恐クハ其當ヲ失セシ寧ロ高木氏ノ說ニ從ヒ通用ヲ命シタルモノニ限レル方可ナラント曰ク然リ然レトモ之ヲ以テ本條ニ所謂通用貨幣ヲ通用ヲ命シタルモノニ限レリトスルヲ得サルナリ加之今日

ニ在テハ實際右ノ如キ不權衡ヲ生スルコトナカルヘシ何トナレハ吾カ國ノ貨幣ハ皆ナ通用ヲ命シタルモノニシテ單ニ通用ヲ許シタルモノアラサレハナリ或ハ曰ハシ金銀價格表ニ掲載セルモノハ皆ナ通用ヲ許サレタル貨幣ナリト此說タル今日專ラ世ニ行ハル、モノナリト雖モ余ハ之ニ服從スルヲ得サルナリ明治七年第九十三號布告ニ曰ク^上右期限中海關稅ヲ除ノ外租稅其他一般ノ公納ニ相用候儀ハ不苦人民相互ノ取引ハ自今令廢止候條此旨布告候事ト今此布告ニ依ルトキハ金銀價格表ニ掲載セルモノハ幾分乎通用ヲ許サレタルモノ、如シト雖モ公納ニ用フルヲ以テ通用ナリトスルヲ得ス之ヲ公納ニ用フルヲ許シタルハ貨幣改鑄ノ爲メニシテ依然

之ヲ通用セシメシカ爲メニ非サルコトハ該布告ニ因テ
明了ナリ況ヤ人民相互ノ取引ヲ廢止ストアルニ於テ
ヤ故ニ金銀價格表ニ掲載セルモノハ一ノ地金ニシテ通
用ヲ許シタル貨幣ニ非サルナリ

右ノ如ク金銀價格表ニ掲載セルモノハ通用貨幣ニ非ス
故ニ一分銀二分金又ハ大小判金ノ類ヲ偽造シテ行使シ
タル者ハ本條ニ依リ之ヲ罰スルヲ得サルナリ然レトモ
分金銀大小判金等ヲ偽造シテ行使シタル者ヲ全ク不問
ニ付スルニ非ス詐欺取財ノ條ニ依ルヘキモノハ之ニ依
テ處斷スヘキナリ

本項ニハ通用貨幣ヲ偽造シテ行使シタル者ノ罪ヲ定ム
故ニ貨幣ヲ偽造シ未タ行使セサル者及ヒ單ニ偽造貨幣

ヲ行使シタル者ハ本條ノ正面ニ當ラサルナリ
紙幣ハ貨幣ニ代用スルモノナリ故ニ紙幣ヲ偽造シテ行
使シタル者ハ總テ貨幣ヲ偽造シテ行使シタル者ニ同シ
トス

偽造貨幣ノ罪ハ其製造ノ巧拙ト其數ノ多小トニ因テ其
性質ヲ變スルモノニ非ス減ハ其疎造ナルト其數少キト
ヲ以テ宥恕ノ模様ト爲スヘシト云フ者アリト雖モ是レ
唯酌量減輕ノ模様タルニ過キス決テ法律上ノ減輕ノ模
樣ト爲スヘキモノニ非サルナリ

○或問テ曰ク人民私ニ紙幣ヲ發行シタルトキハ如何處
分スヘキ乎ト曰ク紙幣ヲ偽造スルトハ官ノ紙幣ニ屬シ
テ之ヲ造ルナイフ故ニ自己ノ氏名ヲ以テ私ニ紙幣ヲ發

行シタル者ハ銀行條例及ヒ明治十四年第七十二號布告ニ依リ處斷スヘキナリ

(三)〇第二項 本項ハ貨幣ヲ變造シテ行使シタル者ノ罪ヲ定ム

變造トハ貨幣ノ文字ヲ改メ又ハ其邊縁ヲ削リ取ルノ類チイフ即チ眞貨幣ノ文字量目等ヲ變スルニ止マリ新ニ之ヲ偽造スルモノニ非サルナリ之ヲ偽造ノ罪ニ比スルニ其情大ニ輕シ是レ前項ノ刑ヨリ三等ヲ減シタル輕懲役ニ處スヘシト定メタル所以ナリ今茲ニ變造ノ偽造ヨリモ其情輕キ所以ヲ説カンニ貨幣ヲ偽造スル者ハ先ツ其製造ノ器械ヲ備ヘサルヘカラス其器械一旦整頓スルトキハ幾多ノ巨額ヲ造ルモ亦容易ナリ之ニ反シテ變造

ハ一時ノ不良心ニ基キ眞貨幣ノ形體量目等ヲ變スルニ止マレハ其數巨額ニ至ルコト殆ト稀ナリ加之偽造ハ巧ニ其伎倆ヲ盡ストキハ當該官ト雖モ猶ホ其眞偽ヲ判別スルヲ得ス變造ハ之ニ反シテ如何ニ之ヲ巧ニスト雖モ固ト眞ノ貨幣ヲ變シタルモノナレハ何人ト雖モ少ク注意ヲ加フルトキハ其眞偽ヲ識別スルコト敢テ難カラス故ニ偽造ハ其害大ナリ變造ハ其害小ナリトス是レ偽造者ヲ無期徒刑ニ處シ變造者ヲ輕懲役ニ處スヘシト定メタル所以ナリ

○本項ニ付テハ一ノ疑問アリ銀貨ニ金ヲ鍍シテ金貨ヲ造リ銅貨ニ金銀ヲ鍍シテ金銀貨ヲ造リタル者ハ偽造トシテ罰スヘキ乎將々變造トシテ罰スヘキ乎ノ点是レナ

リ甲曰ク銀貨ニ金ヲ鍍シテ金貨ヲ造ル者ノ如キハ偽造者トイフヘク變造者トイフヘカヲス何トナレハ此場合ニ於テハ銀貨ヲ以テ金貨ヲ作ルノ用ニ供シタルモノニシテ他ノ物品ヲ以テ金貨ヲ作ルノ用ニ供シタルト全ク同一ナレハナリト乙曰ク變造トハ其義廣シ金銀貨ノ邊縁ヲ削リテ利ヲ得ルモ其文字ヲ改メ若クハ彩色ヲ加ヘテ價格ヲ増スモ皆ナ是レ變造ナリ故ニ銀貨ニ金ヲ鍍シテ金貨ヲ造ル者ノ如キハ亦之ヲ變造者ト爲スヘシト余思フニ此点ハ斯ク一概ニ之ヲ論斷スルヲ得サルヘシ若シ銅貨ニ銀ヲ鍍シテ銀貨ト爲シ文字ヲ改メサルモノ、如キハ之ヲ偽造トイフヲ得ス又文字ヲモ改メ全ク金貨ト同一ニ爲シタルトキハ之ヲ變造トイフヲ得サルヘシ

凡ソ貨幣ハ文字ト形體ト物質トノ三者ニ因テ之ヲ區別スルモノナレハ文字ヲ改メ且彩色ヲ加ヘ他種ノ貨幣ヲ造リタルトキハ之ヲ偽造トイフヘク變造トイフヘカヲサルナリ

○佛刑法第三百三十二條千八百六十三年五月十三日改正 何人ニ限ラズ

佛朗西ニ於テ法律上通用スヘキ金銀貨幣ヲ偽造シ又ハ變造シ若クハ該偽造變造ノ貨幣ヲ行使シ陳列シ又ハ之ヲ佛朗西領地内ニ輸入スルコトニ加功シタル者ハ無期徒刑ニ處セラレシ
佛朗西ニ於テ法律上通用スヘキ銅貨ヲ偽造シ又ハ變造シ若クハ該偽造變造ノ貨幣ヲ行使シ陳列シ又ハ之ヲ佛朗西領地内ニ輸入スルコトニ加功シタル

者ハ有期徒刑ニ處セラルヘシ刑七、二一五、一六、一八、一、三四、三六、四七、一三三以下、一三八、一六三以下、

同第三百三十四條五月八日、十月十三日、三年改正何人ニ限ラズ金屬

ノ性質ヲ詐僞セシカ爲メ佛朗西ニ於テ法律上通用スヘキ貨幣又ハ外國貨幣ニ彩色ヲ加ヘ又ハ之ヲ行使シ若クハ佛朗西領地内ニ輸入シタル者ハ六月以

上三年以下ノ禁錮ニ處セラルヘシ

此彩色ヲ加ヘタル貨幣ヲ行使シ又ハ之ヲ輸入スル

コトニ加功シタル者ハ亦同一ノ刑ニ處セラルヘシ刑九、四〇以下、五八、五九以下、一三五、一六三、

第八十三條

内國ニ於テ通用スル外國ノ金銀貨ヲ僞造シテ行使シ

タル者ハ有期徒刑ニ處ス

若シ變造シテ行使シタル者ハ二年以上五年以下ノ重

禁錮ニ處ス

一 本條ノ主旨

二 第一項ノ解

三 第二項ノ解

四 何故ニ本條ニ紙幣ノ語ヲ記入セサル乎

(一)〇本條ハ内國ニ於テ通用スル外國ノ金銀貨ヲ僞造變造シテ行使シタル者ノ罪ヲ定ム

(二)〇第一項 本項ハ外國貨幣ヲ僞造シタル者ノ罪ヲ定ム
内國ニ於テ通用スル外國ノ貨幣トハ外國政府ノ發行シタル貨幣ニシテ法律上吾カ國ニ於テ通用スル所ノモノ

チイフ而シテ其通用タル敢テ全國ニ通用スルヲ必要ト
 セス唯開港場ノミニ於テ通用スルモノ、如キ亦此中ニ
 包含スヘシ然レトモ其通用タル法律上ノモノ即チ通用
 ナ命シ若クハ許シタルモノニ限ラサルヘカラサルナリ
 右ノ如ク内國ニ於テ通用スル外國ノ金銀貨ハ内國貨幣
 ト同ク内國ニ於テ貨幣タルノ用ヲ爲スモノナレハ法律
 ハ之ヲ偽造變造スル者ヲ罰シテ以テ一般ノ信用ヲ保維
 セサルヘカラス然レトモ之ヲ内國ノ貨幣ニ比スレハ其
 通用頻劇ナラス又其區域廣汎ナラサルヲ以テ之ヲ偽造
 變造スルニ因リ生スルノ害亦從テ小ナリ故ニ内國ノ貨
 幣ヲ偽造シタル者ノ刑ヨリ一等ヲ減シ有期徒刑ニ處ス
 へシト定メタリ

然レトモ他日外國ノ貨幣ヲ日本全國ニ通用セシムヘシ
 ト命スルニ至ラハ其通用ヲ命シタル貨幣ヲ偽造シタル
 者ヲ嚴罰セサルヘカラサルヘシ

〔三〕○第二項 本項ハ外國ノ貨幣ヲ變造シタル者ノ罪ヲ定
 ム

内國ニ通用スル外國ノ貨幣ヲ偽造シタル者ヲ罰スヘク
 ノハ之ヲ變造シタル者モ亦之ヲ罰セサルヘカラス是レ
 本項ノ設ケアル所以ナリ而シテ偽造者ノ刑前條ノ刑ヨ
 リ一等ヲ輕フシタルカ故ニ變造者ノ刑モ亦一等ヲ輕フ
 シ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處スヘシト定メタリ

〔四〕○或問テ曰ク前條ニハ紙幣ノ語アリト雖モ本條ニハ唯
 金銀貨トアリテ紙幣ノ語ナシ是レ内國ニ於テ通用スル

外國ノ紙幣ハ之ヲ偽造若クハ變造シテ行使スルモ之ヲ罰セサルノ意乎ト曰ク次條ニハ内國ニ通用スル外國銀行ノ紙幣ヲ偽造變造シテ行使シタル者ノ罪ヲ定メタリト雖モ本條ニハ外國政府ヨリ發行シタル紙幣ノ事ヲ掲ケス故ニ外國ノ紙幣ヲ偽造又ハ變造シテ行使シタル者ハ之ヲ罰セスト解セサルヘカラス立法官ニ於テ此ノ如ク本條ニ紙幣ノ語ヲ記入セサルモノハ是レ現時吾カ國ニ於テ通用スル外國ノ貨幣ハ金銀貨及ヒ銀行紙幣ニシテ外國政府ノ紙幣ナキカ故ナラン然レトモ何時外國政府ヨリ發シタル紙幣ノ通用ヲ許スコトアルヤモ知ルヘカテサレハ本條ニハ前條ノ如ク紙幣ノ語ヲ記入セラレソコトヲ希望ス

○佛刑法第三百三十三條一千八百九十三年 凡ソ佛朗西國

ニ於テ外國ノ貨幣ヲ偽造シ又ハ變造シ若クハ偽造

變造ノ外國貨幣ヲ行使シ陳列シ又ハ之ヲ佛朗西ニ

輸入スルコトニ加功シタル者ハ有期徒刑ニ處セラ

ル刑七、一五、一六、一七、一八、一九、二〇、二一、二二、二三、二四、二五、二六、二七、二八、二九、三〇、三一、三二、三三、三四、三五、三六、三七、三八、三九、四〇、四一、四二、四三、四四、四五、四六、四七、四八、四九、五〇、五一、五二、五三、五四、五五、五六、五七、五八、五九、六〇、六一、六二、六三、六四、六五、六六、六七、六八、六九、七〇、七一、七二、七三、七四、七五、七六、七七、七八、七九、八〇、八一、八二、八三、八四、八五、八六、八七、八八、八九、九〇、九一、九二、九三、九四、九五、九六、九七、九八、九九、一〇〇以下、

同第三百三十四條前條ニ全

第三百八十四條

官許ヲ得テ發行スル銀行ノ紙幣ヲ偽造シ若クハ變造シテ行使シタル者ハ内外國ノ區別ニ從ヒ前二條ノ例ニ照シテ處斷ス

○本條ハ銀行紙幣ヲ偽造變造シテ行使シタル者ノ罪ヲ定ム

銀行ハ政府ニ充分ナル保證ヲ納レ其許可ヲ得テ紙幣ヲ發行スルヲ得而シテ此紙幣ノ通用及ヒ其效用タル毫モ政府ヨリ發スル紙幣ト異ナルコトナシ故ニ之ヲ偽造シ又ハ變造シテ行使シタル者ハ政府ノ紙幣ヲ偽造シ變造シテ行使シタル者ト其罪ヲ同フス蓋シ其信用ヲ害シテ害ヲ社會ニ加フル更ニ軒輊ナケレハナリ

内外國ノ區別ニ從ヒトハ内國ノ銀行紙幣ヲ偽造變造シテ行使シタル者ハ第百八十二條ニ照シ無期徒刑若シハ輕懲役ニ處シ外國ノ銀行紙幣ヲ偽造變造シテ行使シタル者ハ第百八十三條ニ照シ有期徒刑若シハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處スル旨ヲ明カニシタルナリ

第百八十五條

内國通用ノ銅貨ヲ偽造シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス若シ變造シテ行使シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

○本條ハ内國通用ノ銅貨ヲ偽造變造シテ行使シタル者ノ罪ヲ定ム

銅貨ノ偽造ハ金銀貨及ヒ紙幣ノ偽造ニ比スレハ公益ヲ害スルコト少シ何トナレハ銅貨ハ其價格極メテ賤ク且各人行使上ノ分量夥多ナラサルヲ以テ其害他ノ貨幣ニ於ケルカ如ク太甚シカラサレハナリ故ニ之ヲ偽造シテ行使シタル者ハ金銀貨ヲ偽造シテ行使シタル者ノ刑ヨリ三等ヲ減シタル所ノ輕懲役ニ處シ之ヲ變造シテ行使シタル者モ亦殆ト三等ヲ減シタル所ノ一年以上三年以

下ノ重禁錮ニ處スヘシト定メタリ
○佛刑法第三百三十二條項末 第百八十二條
ニ全文ヲ掲ク

第百八十六條

前數條ニ記載シタル貨幣ノ偽造變造已ニ成テ未タ行使セサル者ハ各本刑ニ照シ一等ヲ減シ其未タ成ラサル者ハ二等ヲ減ス [刑]一―二、
若シ偽造ノ器械ヲ豫備シテ未タ着手セサル者ハ各三等ヲ減ス [刑]一―一、

- 一 本條ノ主旨
- 二 第一項ノ解
- 三 第二項ノ解

〔一〕〇本條ハ貨幣偽造若クハ變造ノ未遂犯及ヒ豫備ニ關スル特例ヲ定ム

〔二〕〇第一項 本項ハ前數條ニ定メタル貨幣ノ偽造變造既ニ成テ未タ行使セサル者及ヒ偽造變造ニ着手シ未タ成ラサル者ノ罪ヲ定ム
本項ノ義理ヲ解釋セント欲セハ先ツ前數條ニ定メタル罪ハ何時ヨリ其施行ニ着手シタルモノナル乎ヲ論定セサルヘカラス甲曰ク前數條ノ罪ハ貨幣ヲ偽造變造シタルニ成ラスシテ之ヲ行使シタルニ成ルモノナリ故ニ行使ニ着手シタルトキ始メテ其罪ノ施行ニ着手シタリトイフヘシト乙曰ク前數條ノ罪ハ偽造若クハ變造ト行使トニ因リ成立スルモノナリ故ニ偽造若クハ變造ニ着手シタルトキハ既ニ其罪ノ施行ニ着手シタルモノナリト

丙曰ク法律ニ於テハ偽造若クハ變造ト其行使トヲ具備
 タルトキ之ヲ罪ト爲スモ偽造若クハ變造ノ所爲ト行使
 ノ所爲トハ自ラ異ナレリ故ニ偽造變造ニ着手シタリト
 雖モ未タ以テ行使ニ着手シタリトイフヲ得ス又未タ行
 使ニ着手セスト雖モ既ニ偽造變造ニ着手シタルトキハ
 未タ偽造變造ニ着手セストイフヲ得サルナリト三者各
 其持論ヲ異ニスト雖モ余ハ乙說能ク其當ヲ得タリト信
 ズ抑罪ノ施行ト其豫備トハ相隣スルモノナレハ施行前
 ノ所爲ヲ豫備トシ豫備後ノ所爲ヲ施行トス今甲說ノ如
 シ行使ニ着手シタルトキ始メテ罪ノ施行ニ着手シタリ
 トセシ平貨幣ヲ偽造シ又ハ變造シタルヲ以テ豫備ノ所
 爲トセサルヘカラズ貨幣ヲ偽造シ若クハ變造スルヲ以

偽造若クハ變造
 乙說ノ如ク
 偽造變造ニ
 着手シタル
 トキ既ニ前
 數條ニテ
 論スヘク之
 ナ二箇ニ區
 別シテ論ス
 ヘカラサル
 ナリ故

テ貨幣ヲ偽造シ又ハ之ヲ變造シテ行使シタル罪ノ豫備
 ト爲スハ罪ノ一部ヲ撮テ以テ其全體ノ豫備ト爲サント
 欲スルモノニシテ全ク其理ニ反スルモノナリ又丙說ハ
 敢テ其理ナキニ非スト雖モ法律ニ偽造若クハ變造ト行
 使トヲ合シテ一罪ト爲シタル以上ハ之ヲ以テ一罪トシ
 テ論スヘク之ヲ二箇ニ區別シテ論スヘカラサルナリ故
 ニ乙說ノ如ク偽造變造ニ着手シタルトキ既ニ前數條ニ
 定メタル罪ノ施行ニ着手シタリトセサルヘカラサルナ
 リ
 内國通用ノ金銀貨紙幣及ヒ銀行紙幣ヲ偽造變造シテ行
 使シ又ハ内國通用ノ外國貨幣銀行紙幣及ヒ内國通用ノ
 銅貨ヲ偽造シテ行使シタルハ一ノ重罪ナリ故ニ其事ヲ

行ヒ未タ遂ケサル者ハ總則ニ從ヒ一等又ハ二等ヲ減シテ之ヲ罰スルヲ得ヘシ然ルニ立法官ニ於テ特ニ本項ヲ設ケタルモノハ是レ偽造貨幣ノ未遂犯ハ貨幣ノ偽造若クハ變造ニ着手シタルヨリ之ヲ行使スルマテヲ包含スルモノニシテ而シテ偽造變造ニ着手シ未タ成ラサルモノハ其情輕ク本刑ニ一等ヲ減シテ罰スルハ嚴ニ過キ偽造變造既ニ成リタルモノハ其情重ク本刑ニ二等ヲ減スルトキハ寬ニ失スルカ故ナリ又外國ノ金銀貨銀行紙幣及ヒ內國通用ノ銅貨ヲ變造シテ行使シタルハ一ノ輕罪ナレハ通常其未遂犯ヲ罰スルヲ得ス然ルニ此等ノ罪ハ世安キ害スル大ナルモノナレハ立法官認テ之ヲ罰セサルヘカラストシ特ニ本項ヲ設ケタリ故ニ偽造變造ノ貨

幣紙幣既ニ成リタルトキハ之ヲ行使セント試ミテ遂ケサル者ヲ未タ之ヲ試ミサル者モ皆ナ一等ヲ減シテ之ヲ罰スヘク又未タ成ラサル者ハ二等ヲ減シテ之ヲ罰スヘキナリ

本項ニ未タ成ラサル者云々トアリ未タ成ラサル者トハ着手後ヲ指スモノト解セサルヘカラス何トナレハ次項ニ着手前ノ罪ヲ定メタレハナリ或ハ曰ハン次項ハ唯偽造ニ關スルノ規則ナリ故ニ變造ニ付テハ決意外形ニ現ハレタルヨリ變造成ルマテヲ以テ未タ成ラサル者ト爲スヘシト大ニ然ラズ假ニ此說ニ從ハン乎重キ偽造罪ニ付テハ器械ヲ豫備シテ未タ着手セサル者ヲ罰スルニ本刑ヨリ三等ヲ減シタルノ刑ヲ以テシ變造ニ付テハ決意